

I 調査の概要

1 目的

本県の歯科保健の現状を把握し、県歯科保健施策の効果についての検討や、第2次健康いばらき21プランにおいて設定した目標の達成度等の判定を行い、今後の歯科保健医療施策の推進に必要な基礎資料を得ることを目的とする。

2 実施主体

茨城県

なお、調査票の配布回収（成人を対象とした調査のみ）、集計および報告書の作成等については「平成27年度県民歯科保健基礎調査業務委託契約書」にしたがい、東水戸データサービス株式会社に委託した。

3 調査対象地域

(1) 成人を対象とした調査

2次保健医療圏ごとに1市（町）とし、以下9市（町）を対象地域とした。

水戸保健医療圏	:	茨城町
日立保健医療圏	:	日立市
常陸太田・ひたちなか保健医療圏	:	常陸太田市
鹿行保健医療圏	:	鹿嶋市
土浦保健医療圏	:	土浦市
つくば保健医療圏	:	つくばみらい市
取手・竜ヶ崎保健医療圏	:	河内町
筑西・下妻保健医療圏	:	桜川市
古河・坂東保健医療圏	:	坂東市

(2) 12歳児を対象とした調査

県内全域とした。

(3) 3歳児を対象とした調査

県内全域とした。

4 調査対象者及び調査対象抽出方法

(1) 成人を対象とした調査

調査対象地域に居住し、平成27年4月1日現在で満40歳、50歳、64歳、80歳の男女で、調査対象地域の選挙人名簿から抽出した。

(2) 12歳児を対象とした調査

茨城県が無作為に抽出した中学校に在籍する中学1年生すべての男女。

(3) 3歳児を対象とした調査

県内市町村の平成27年10月に実施するすべての3歳児健康診査及び11月に実施する第1回目の3歳児健康診査を受けたすべての児。

5 調査対象者数

(1) 成人を対象とした調査

3,060名

【対象数の考え方】

40歳、50歳 2世代×100人（男性50人 女性50人）×9地区=1,800人

64歳、80歳 2世代×70人（男性35人 女性35人）×9地区=1,260人

(2) 12歳児を対象とした調査

3,000名

【対象数の考え方】

平成26年5月1日現在の県内小学6年生児童数27,314人×1割≒3,000人

(3) 3歳児を対象とした調査

3,000名

【対象数の考え方】

月平均健診回数が1回未満：1回×12市町村 =12回・・・①

月平均健診回数が1回：2回×18市町村 =36回・・・②

月平均健診回数が1回以上：35回（月平均回数の計）+14市=49回・・・③
(①+②+③)×31.8人（1回あたり平均受診者数）=97×31.8=3,085≒3,000人

6 調査の実施方法

(1) 成人を対象とした調査（県委託業者が実施）

- ・ 県委託業者は、対象者に調査協力依頼書及び調査票を郵送にて配布した。
- ・ 対象者は、調査に協力し、県に調査票を返送した。
- ・ 県委託業者は、調査票をとりまとめ、集計を行った。

(2) 12歳児を対象とした調査（県委託業者が実施）

- ・ 県は、対象中学校に調査協力依頼書及び調査票を郵送にて配布した。
- ・ 対象中学校の1年の全生徒は、調査に協力し、学校単位で取りまとめの上、県に調査票を返送した。
- ・ 県は、調査票をとりまとめ、県委託業者が集計および報告書作成を行った。

(3) 3歳児を対象とした調査（県委託業者が実施）

- ・ 県は、市町村に調査協力依頼書及び調査票を配布した。
- ・ 市町村は対象者の保護者に調査票の記入を依頼し、取りまとめの上、保健所を通じて県に調査票を返送した。
- ・ 県は、調査票をとりまとめ、県委託業者が集計および報告書作成を行った。

7 調査時期

平成27年9月から平成28年1月までとする。

8 調査内容

属性（性別、年齢）、歯科保健行動（食生活、フッ化物配合歯磨き剤の使用、歯科受診などの状況）、むし歯罹患（むし歯の有無、本数などの自己判定）などであった。なお、成人では生活習慣（運動習慣、喫煙状況）についても質問するなど、各対象年齢により質問項目は異なっていた。

9 個人情報の安全管理

個人情報は「平成27年度県民歯科保健基礎調査業務委託契約書」に基づき厳重に管理された。

Ⅱ 結果の概要

II 結果の概要

※本書表記の注意点

- ・グラフの単位は「%」である。百分率の内訳数値は、四捨五入の結果、合計が100.0にならない場合もある。
- ・グラフ中の縦軸の括弧内の数値は母数をあらわす。
- ・グラフ内には全数値を表示していない。集計表で数値を確認すること。
- ・集計表の割合(%)は、無回答を除いた値としている。

1 成人を対象とした調査

(1) 回答数等

有効回答率は42.4%であり、有効回答数の男女比は約1:1.2であった。

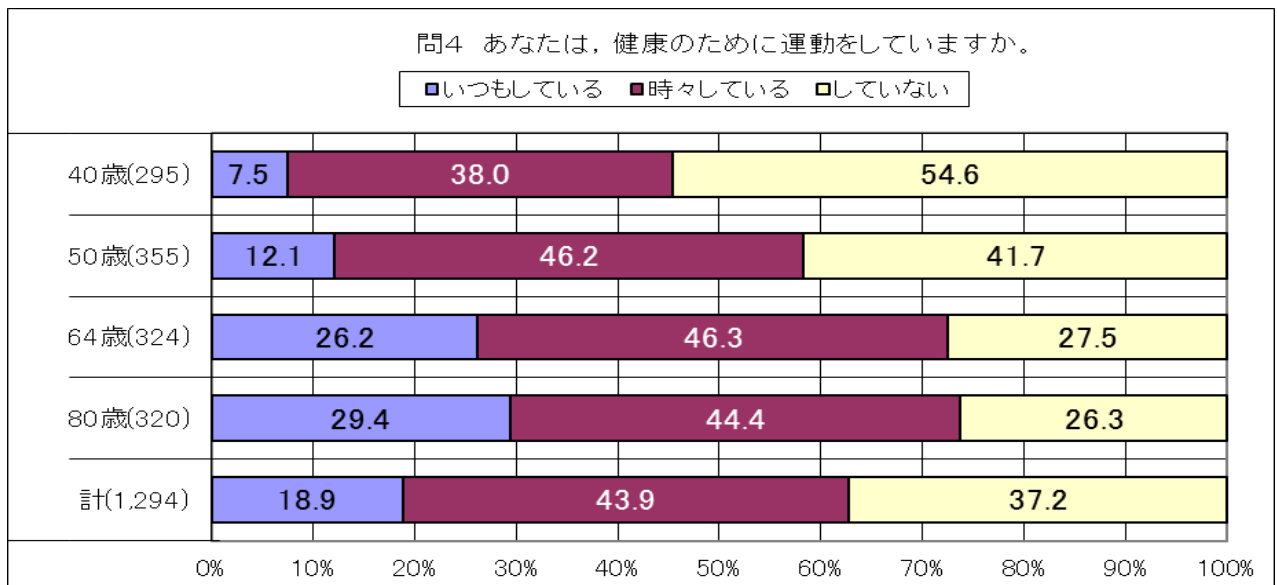
性別・年齢別では64歳女性が最も有効回答率が高く、40歳男性が最も低かった。

なお、回収した調査票のうち、性別・年齢・居住地が記入されているものを有効回答とした。

	調査人数	回収数	有効回答数	有効回答率 (%)
男性	1,530	588	588	38.4
女性	1,530	710	710	46.4
性別等無記入	-	13	0	-
計	3,060	1,311	1,298	42.4

(2) 運動習慣

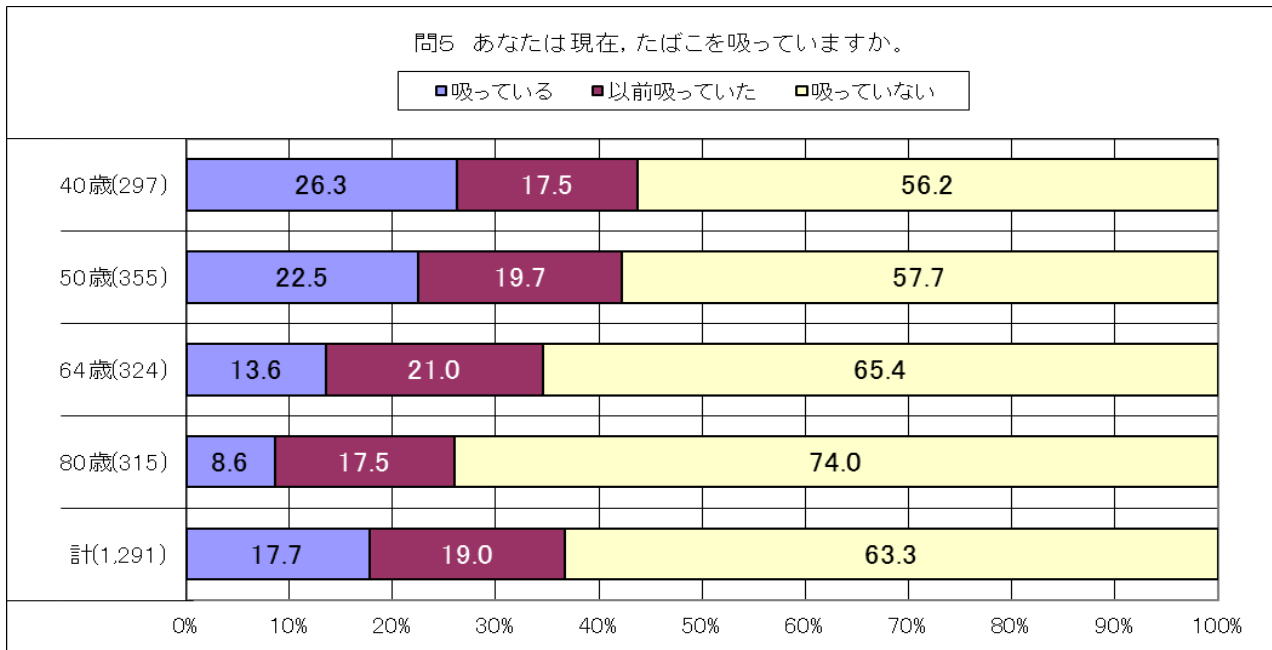
健康のため運動を時々している者が43.9%と最も高かった。性別・年代別では、運動をしていない者の割合が最も低いのは80歳男性で、最も高いのは40歳女性であった。



(3) 喫煙

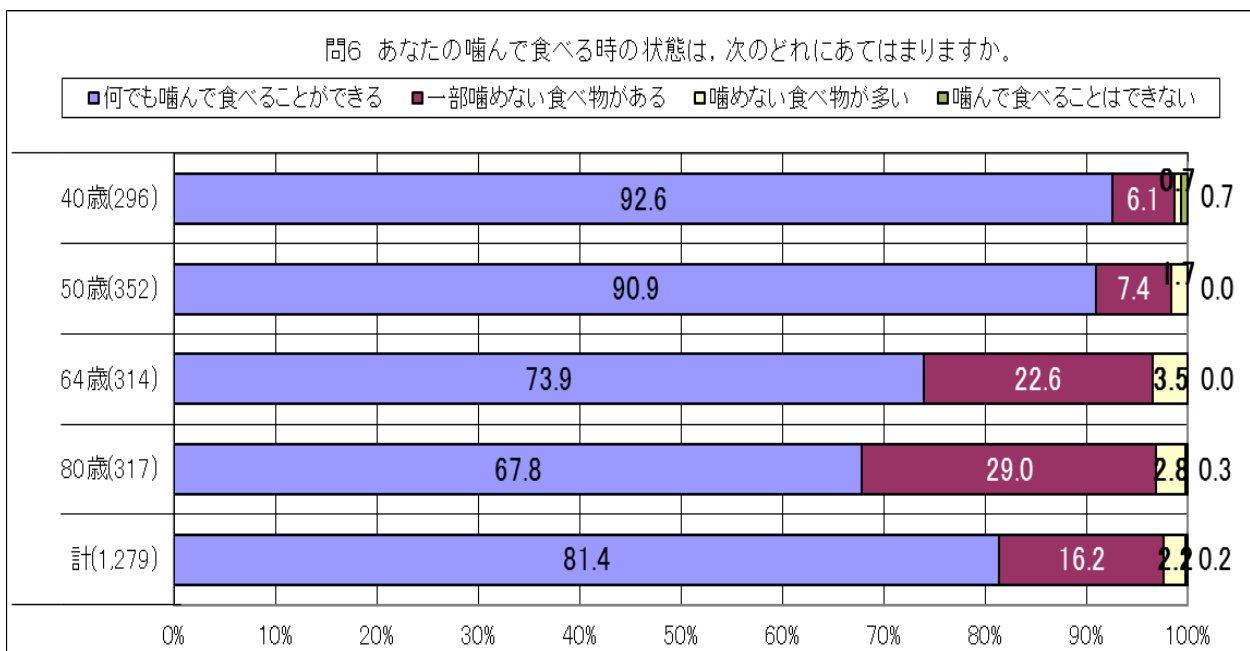
たばこを吸っていないと回答した者の割合が63.3%と最も高かった。性別・年代別では、吸っている者の割合が最も低いのは80歳女性で、最も高いのは40歳男性であった。

なお、たばこを吸っていない者は、たばこを吸っている又は以前吸っていた者に比べて、進行した歯周病がない者(40歳、50歳)や64歳で24本以上自分の歯を持つ者が多い傾向がみられた。



(4) 噛んで食べる時の状態

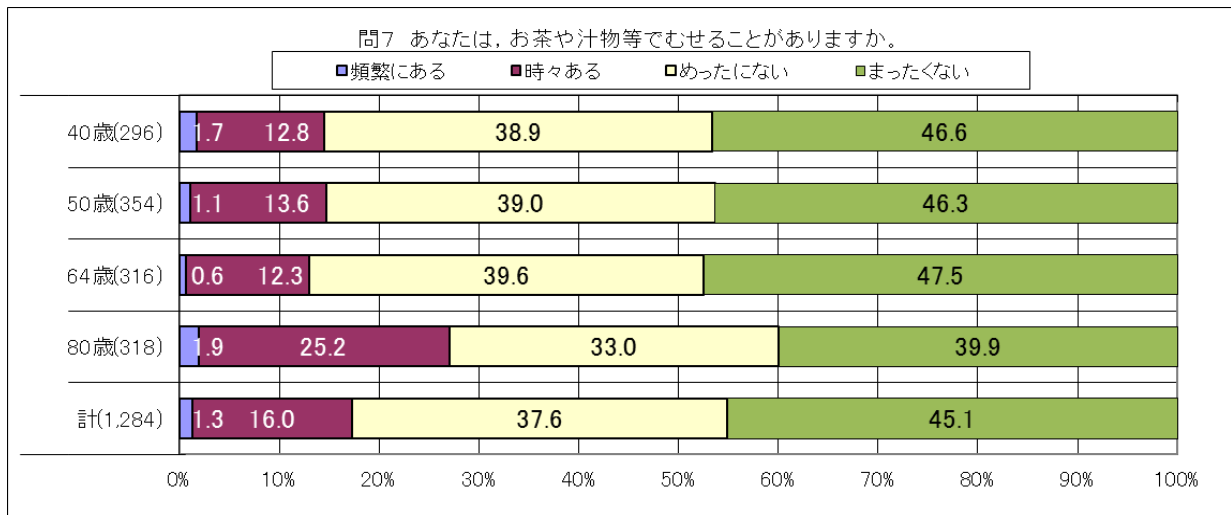
何でも噛んで食べることができる」と回答した者の割合が 81.4%と最も高かった。性別・年代別では、何でも噛んで食べることができる者の割合が最も高いのは 40 歳男性で、最も低いのは 80 歳女性であった。



(5) 飲み物でのむせ

飲み物でまったくむせない」と回答した者の割合が 45.1%と最も高かった。性別・年代別では、頻繁にむせる、または時々むせる者の割合が最も低いのは 40 歳女性で、最も高いのは 80 歳女性であった。

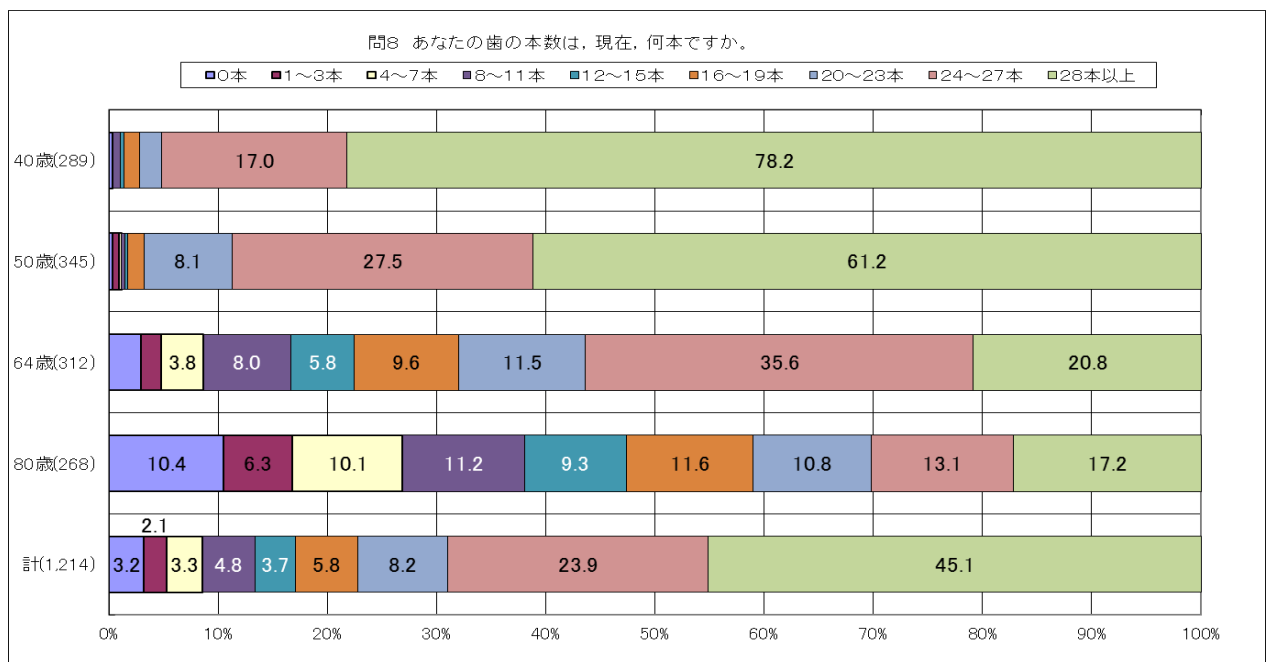
なお、お茶や汁物等でめったに又はまったくむせない者は、頻繁に又は時々むせる者に比べて、80 歳で 20 本以上自分の歯を持つ者が多い傾向がみられた。



(6) 歯の本数

28本以上と回答した者の割合が45.1%と最も高く、男女別では女性の方が28本以上と回答した者の割合が高かった。年代別では、40歳、50歳では28本以上と回答した者の割合がそれぞれ78.2%、61.2%と最も高かった。64歳では20～23本と回答した者の割合が35.6%と最も高く、80歳では28本以上と回答した者の割合が17.2%と最も高かった。

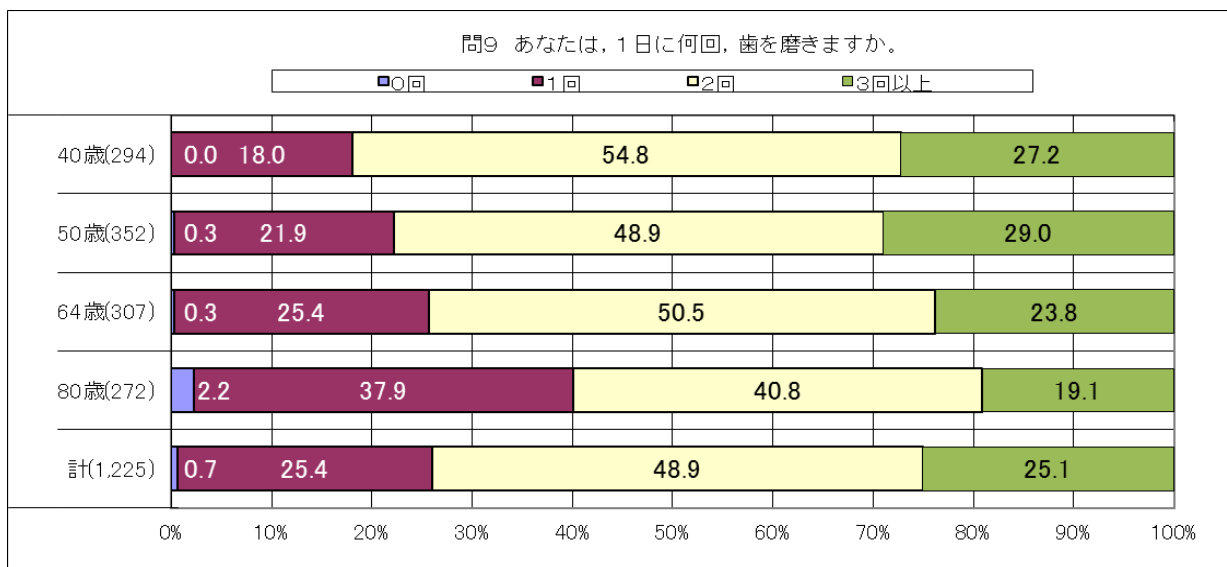
なお、28本以上自分の歯をもつ者は、27本以下自分の歯をもつ者に比べて進行した歯周病がない者（40歳、50歳）が多い傾向がみられた。



(7) 歯磨き回数

1日2回歯を磨くと回答した者の割合が48.9%と最も高かった。性別・年代別では、1日3回以上歯を磨く者の割合が最も高いのは50歳女性で、最も低いのは50歳男性であった。

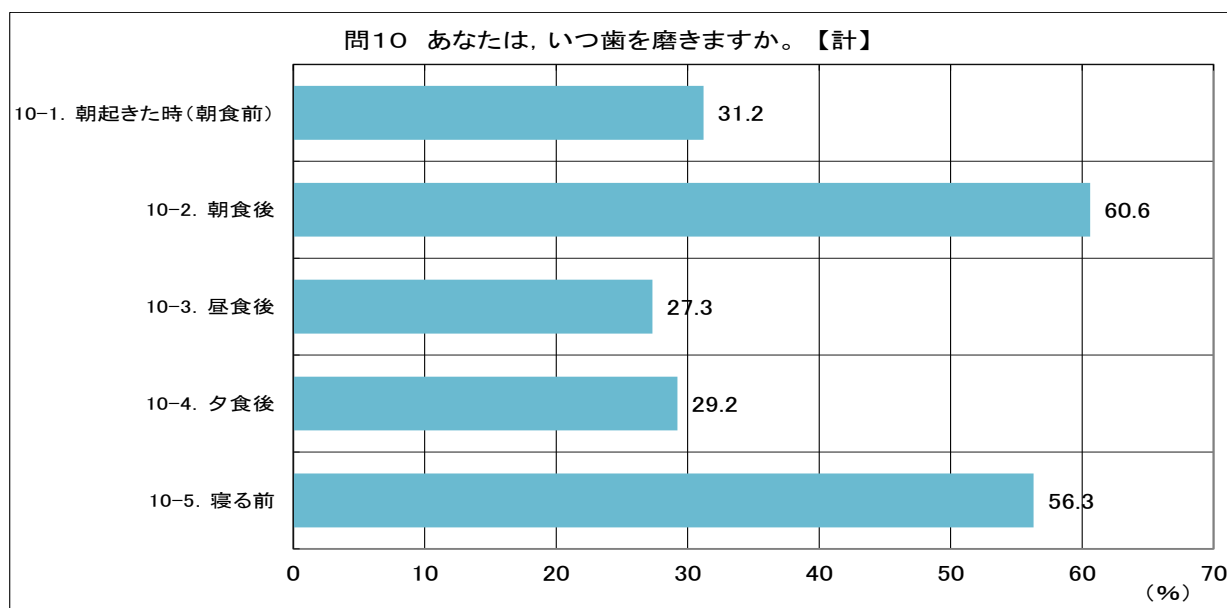
なお、1日3回以上歯を磨く者は、1日2回以下歯を磨く者に比べて、64歳で24本以上自分の歯を持つ者が多い傾向がみられた。



(8) いつ歯を磨くか

朝食後と回答した者の割合が 60.6%と最も高かった。また、全年代とも朝食後と回答した者の割合が最も高かった。

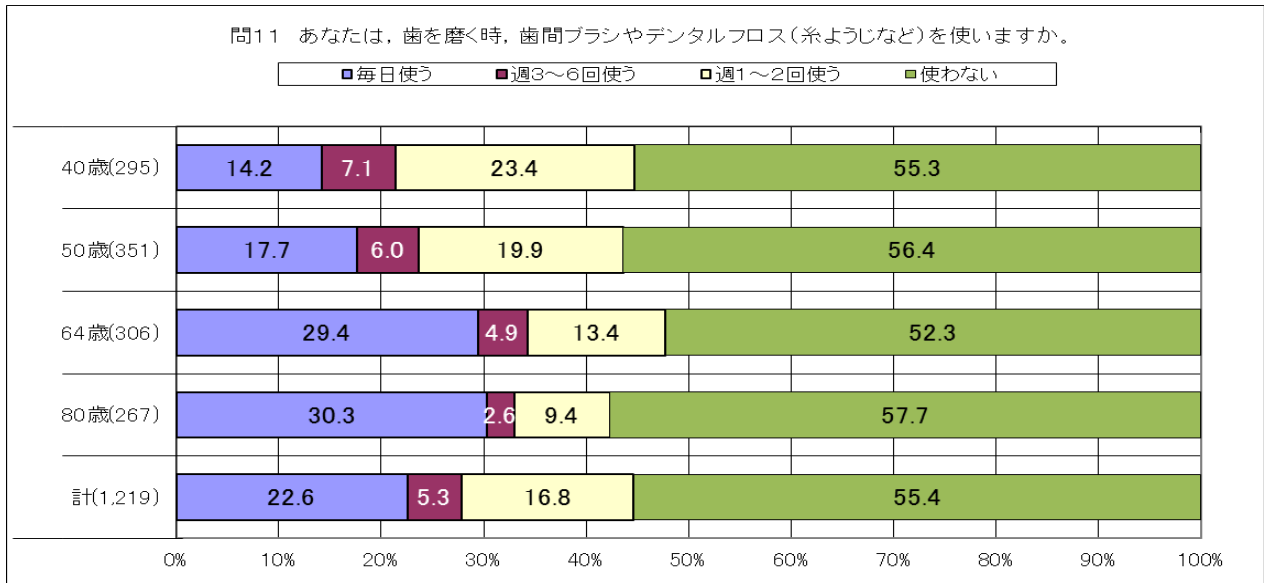
なお、夜寝る前に歯を磨く者は、磨かない者に比べて、64歳で24歳及び80歳で20本自分の歯を持つ者が多い傾向がみられた。



(9) 歯間ブラシ・デンタルフロスの使用

歯間ブラシやデンタルフロスを使わないと回答した者の割合が 55.4%と最も高かった。性別・年代別では、使わない者の割合が最も低いのは 64歳女性で、最も高いのは 40歳男性であった。

なお、歯間ブラシやデンタルフロスを使う者は、使わない者に比べて、80歳で20本以上自分の歯を持つ者が多い傾向がみられた。



(10) 歯肉の炎症所見

「歯ぐきが腫れていますか」「歯を磨く時血が出ますか」の設問のいずれか、または両方で「はい」と回答した者を「歯肉に炎症所見がある者」とした。

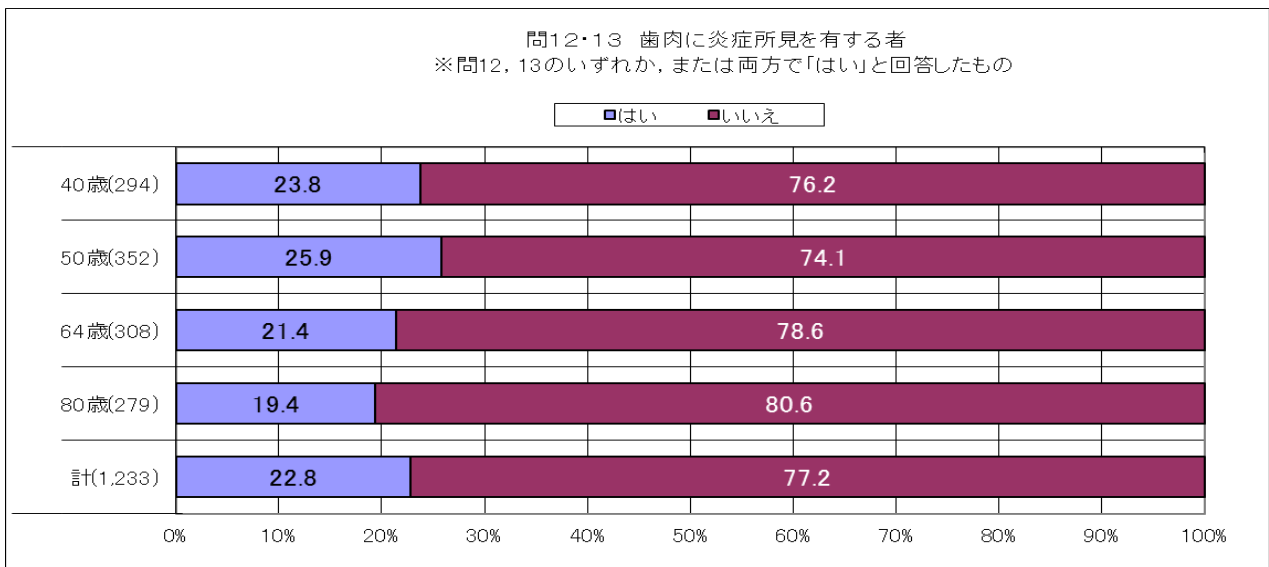
歯肉に炎症所見を有しない者の割合が77.2%と最も高かった。性別・年代別では、歯肉に炎症所見を有する者の割合が最も低いのは80歳女性で、最も高いのは50歳男性であった。

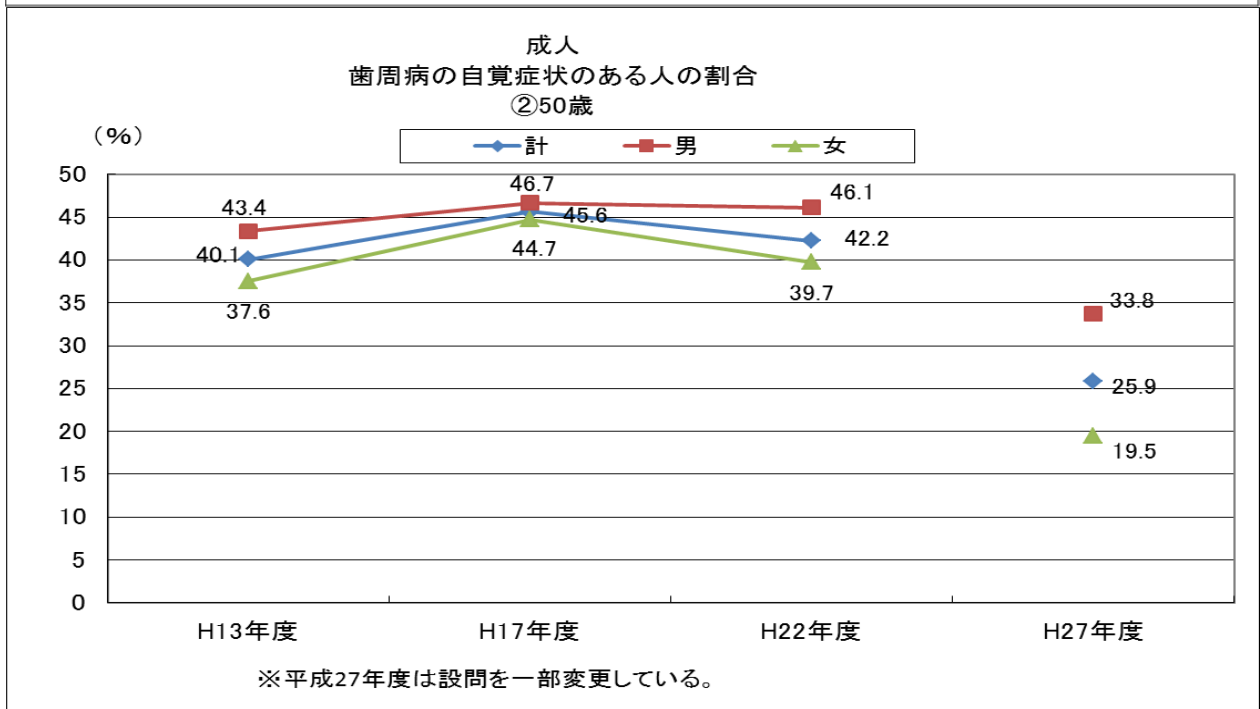
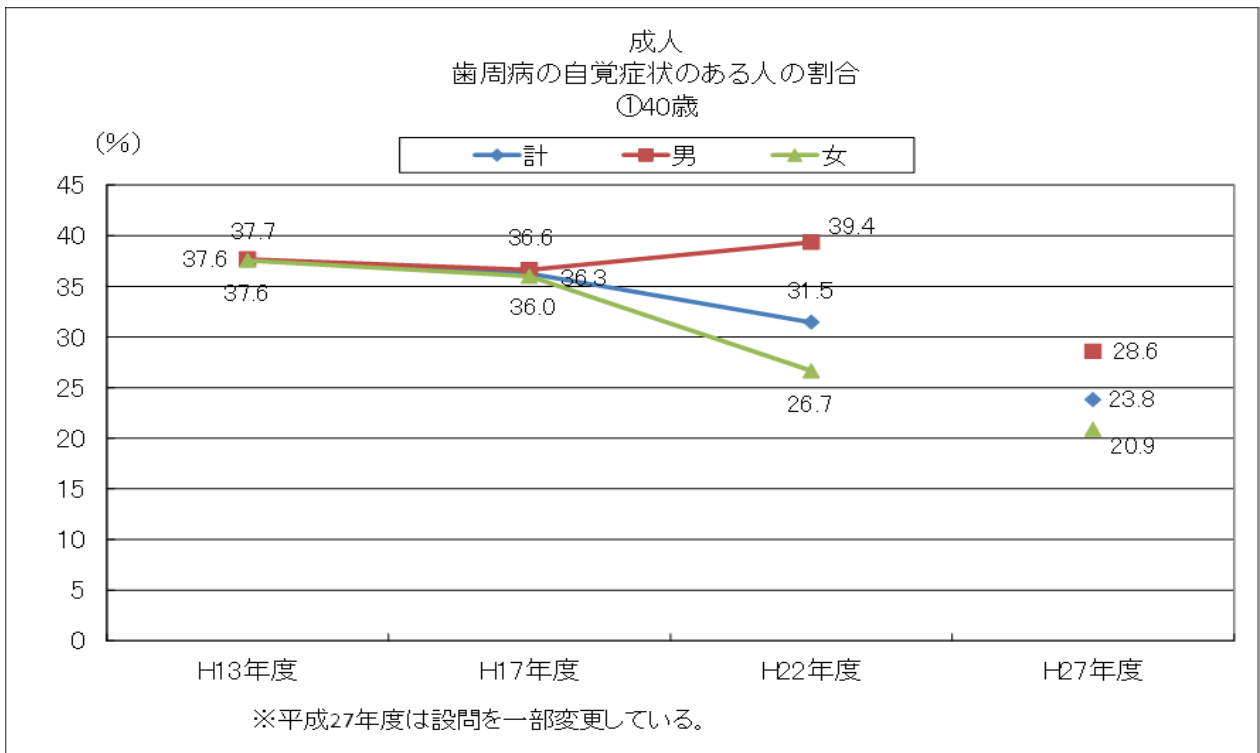
(年次推移)

平成22年度以前の調査では、「歯をみがいたとき歯ぐきから血が出ることはありませんか」で「ある、時々ある、ほとんどない」と回答した者または、「歯ぐきがブヨブヨとやわらかくなっていますか」で「なっている、少しなっている、ほとんどなっていない」と回答した者または、「むし歯もないのに硬い食べ物がかみにくいことがありますか」で「ある、時々ある、ほとんどない」と回答した者を歯周病の自覚症状のある者とした。

平成27年度の調査では、「歯肉の炎症所見を有する者」を歯周病の自覚症状のある者とした。

設問を変更したため単純比較はできないが、低下傾向が認められた。



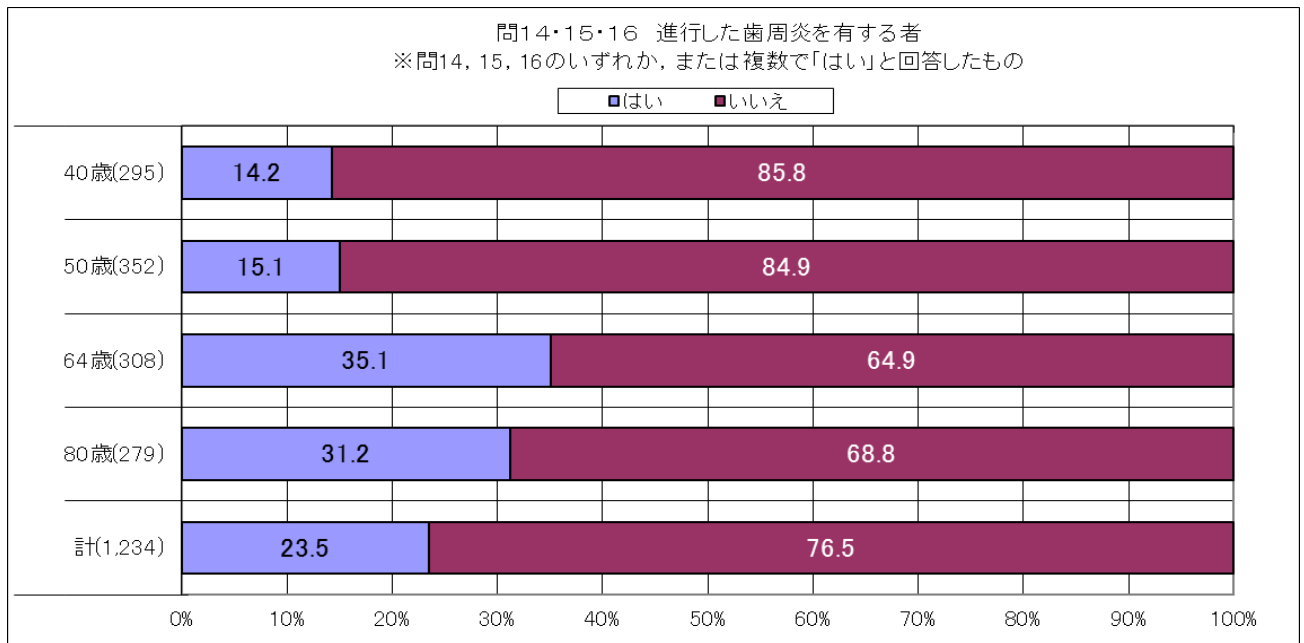


(11) 進行した歯周炎

「歯ぐきを押すと膿が出ますか」「ぐらぐらする歯がありますか」「歯科医師に歯周病（歯槽膿漏など）と言われ、治療していますか」の設問のいずれか、または複数で「はい」と回答した者を「歯肉に炎症所見がある者」とした。

進行した歯周炎を有しない者の割合が76.5%と最も高かった。性別・年代別では、進行した歯周炎を有する者の割合が最も低いのは50歳女性で、最も高いのは64歳男性であった。

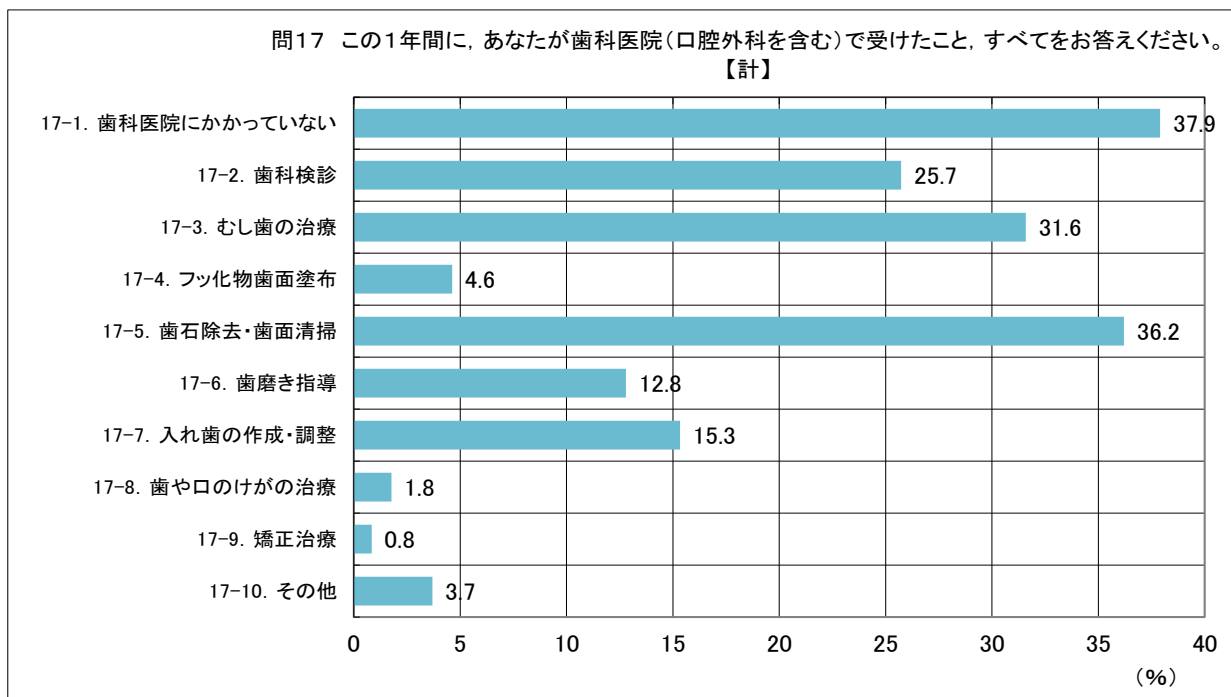
なお、進行した歯周炎を有しない者は、有する者に比べて、64歳で24本以上自分の歯を持つ者が多い傾向がみられた。



(12) この1年の間の歯科受診の詳細 (複数回答)

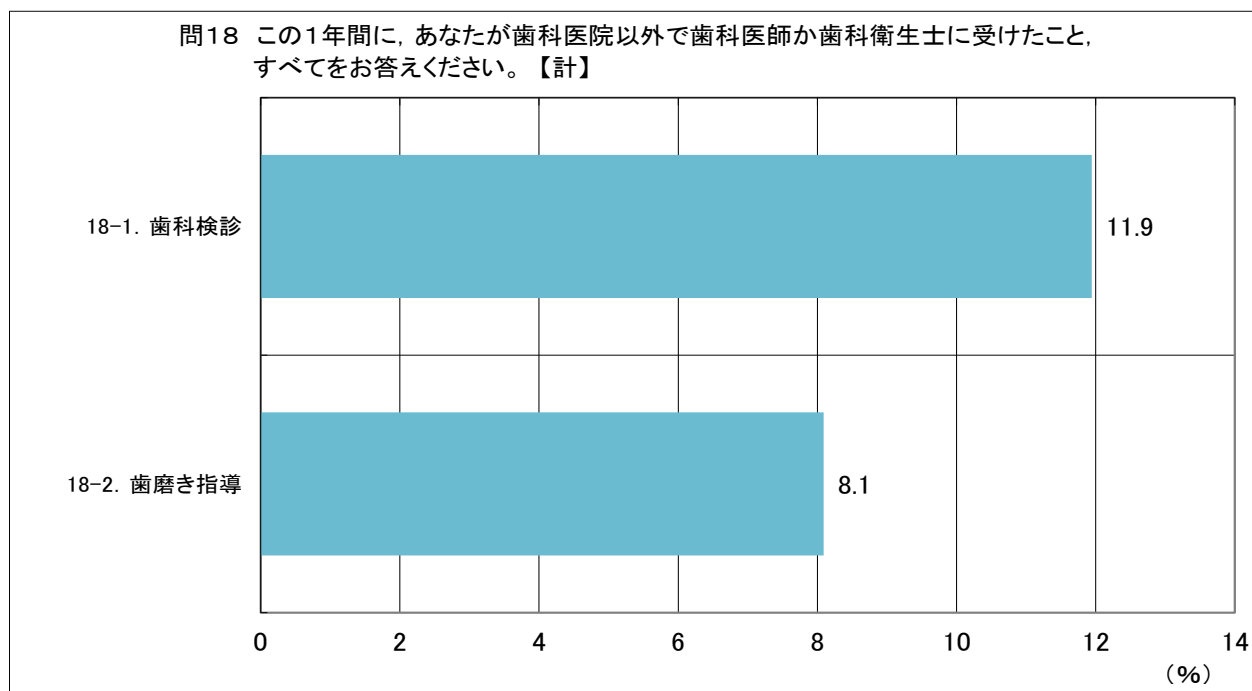
各選択肢のうち、最も回答率が高いのは「この1年間は、歯科医院にかかっていない」であり、次いで「歯石除去・歯面清掃」であった。「その他」の内容としては「顎関節症の治療」が最も多かった。

年代別で最も回答率が高いのは、40歳及び64歳では「歯石除去・歯面清掃」、50歳では「この1年間は、歯科医院にかかっていない」、80歳では「入れ歯の作成・調整」であった。



(13) 歯科医院以外での歯科検診受診・歯磨き指導（複数回答）

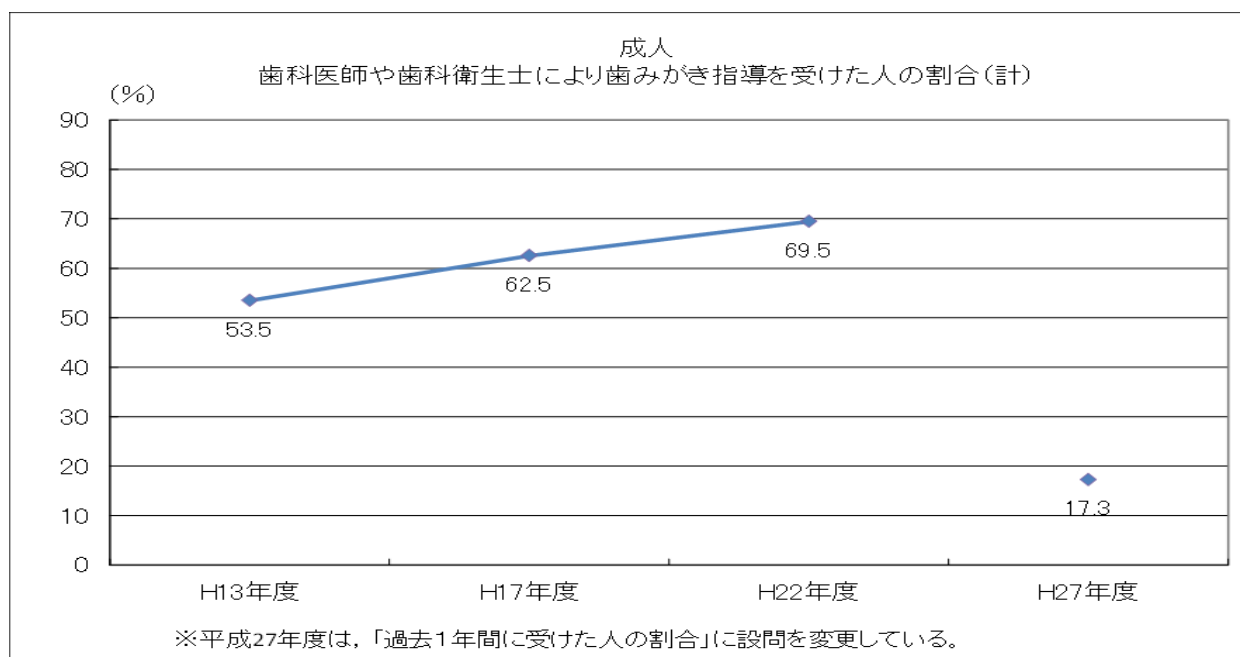
回答率が高いのは歯科検診で 11.9%であった。年代別では、歯科検診を受けた者、歯磨き指導を受けた者ともに、割合が最も高いのは 80 歳であった。



(14) 歯科医師や歯科衛生士による歯磨き指導（年次推移）

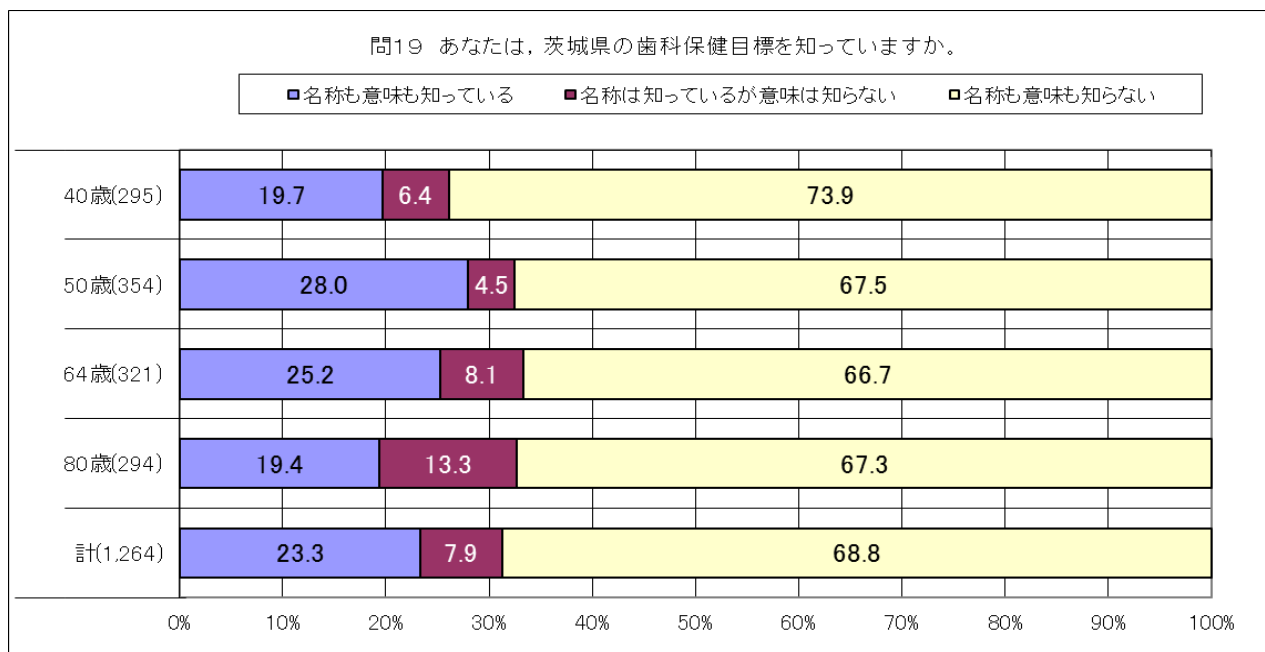
平成 27 年度の調査では「この 1 年間に歯磨き指導を受けた者」「この 1 年間に歯科医院以外で歯磨き指導を受けた者」のいずれか、または両方回答したものとした。

平成 22 年以前の調査では「歯科医師や歯科衛生士から歯の磨き方の指導を受けたことがありますか」で「はい」と回答したものとした。



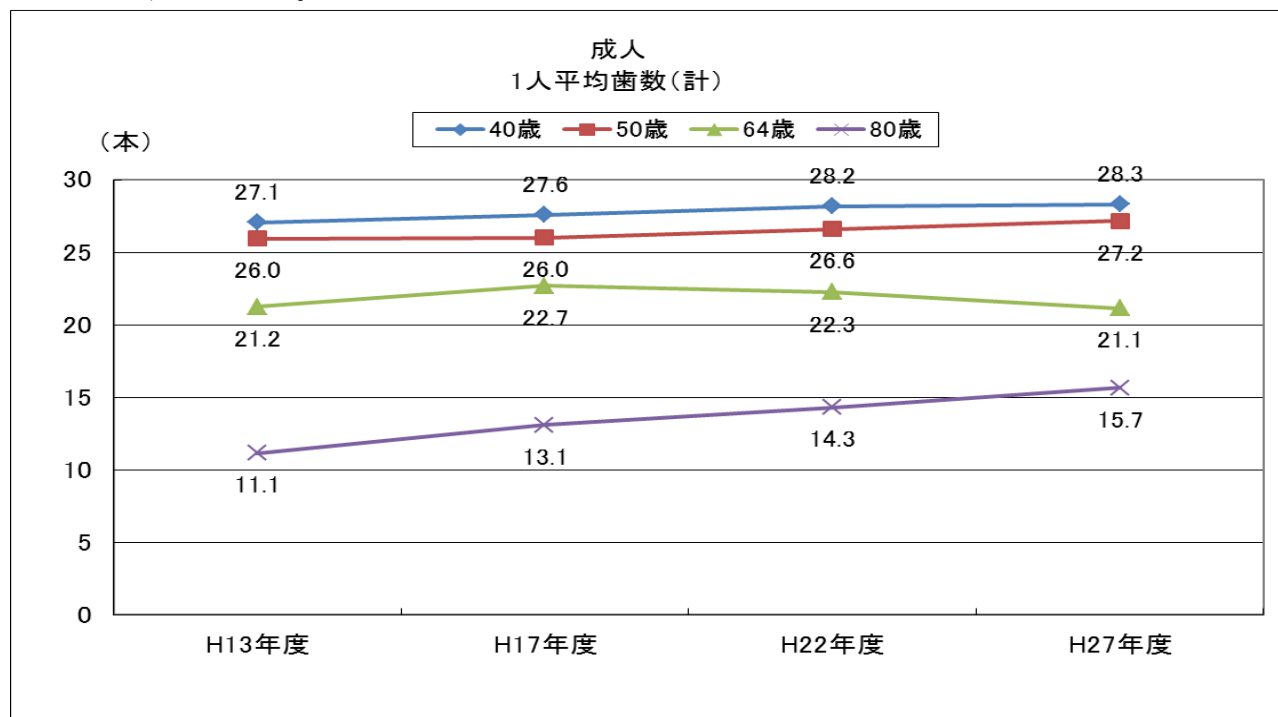
(15) 歯科保健目標

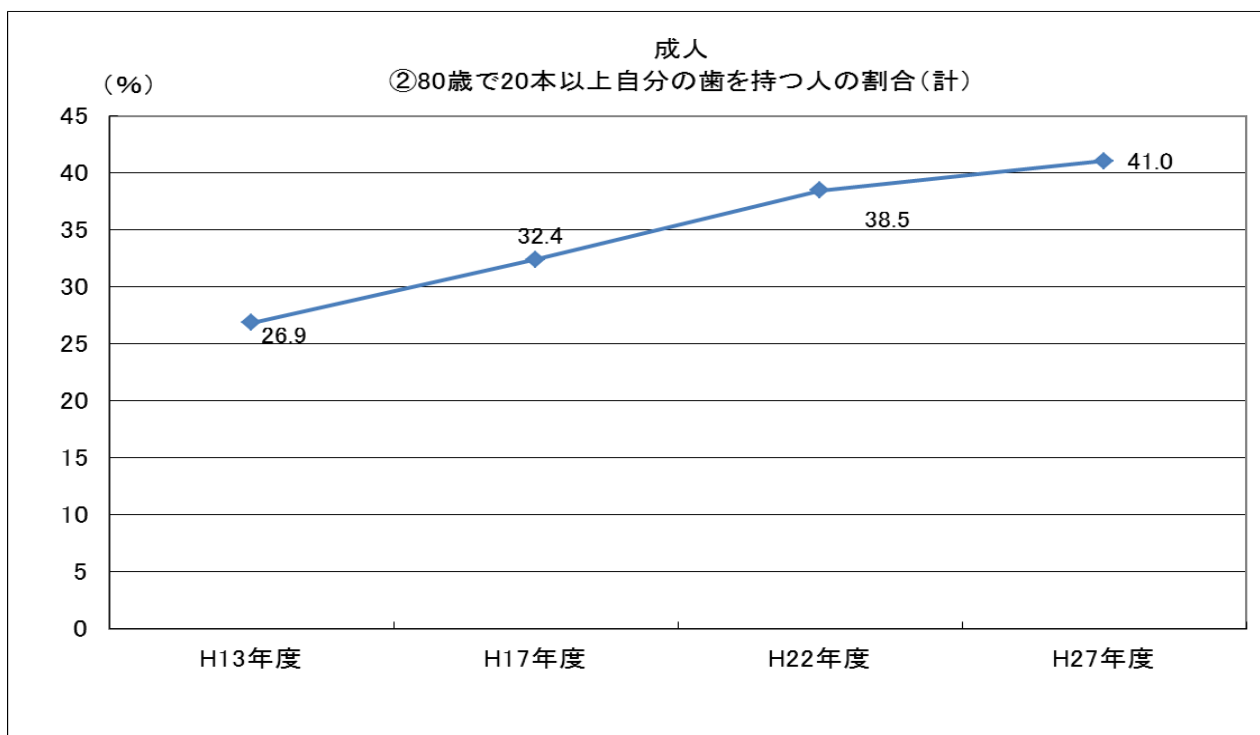
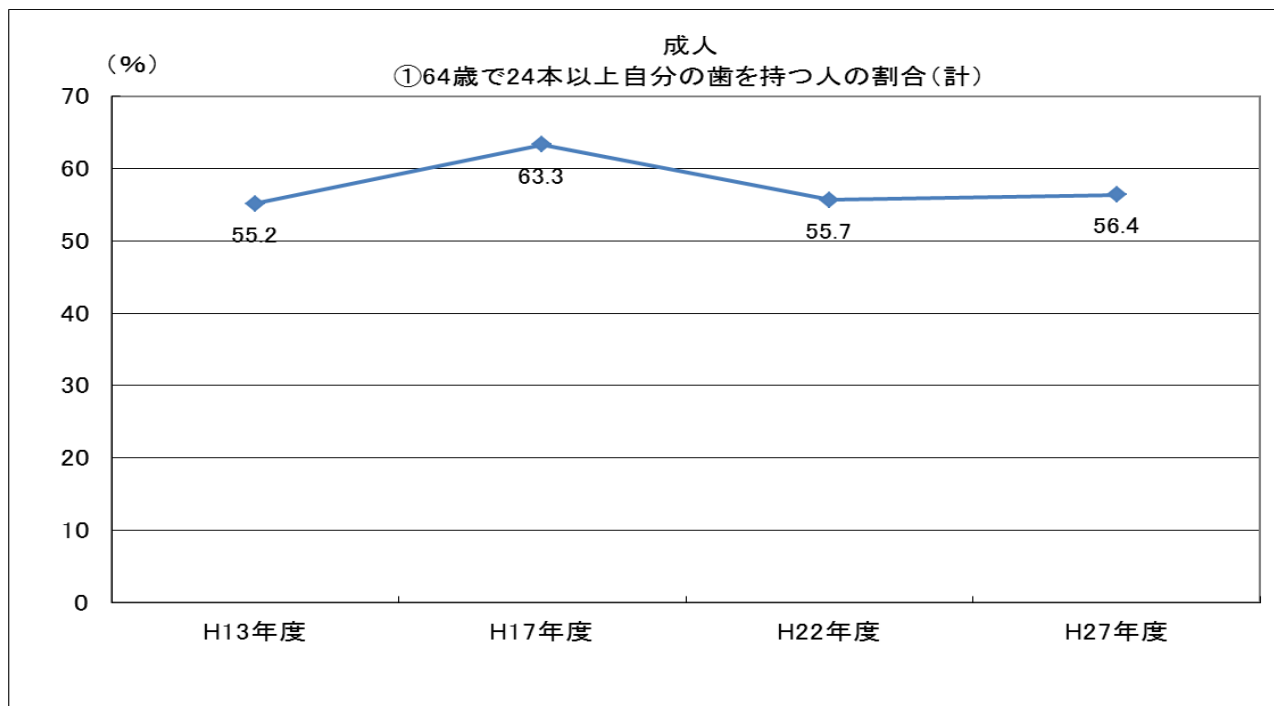
名称も意味も知らない者の割合が68.8%と最も高かった。性別・年代別では、名称も意味も知っている者の割合が最も高いのは50歳女性で、最も低いのは40歳男性であった。



(16) 現在歯数（年次推移）

1人平均歯数は64歳以外で増加していた。64歳で24本自分の歯を持つ者は前回より増加しているものの横ばい傾向であった。80歳で20本自分の歯を持つ者は初めて4割を超えた。





2 12歳児を対象とした調査

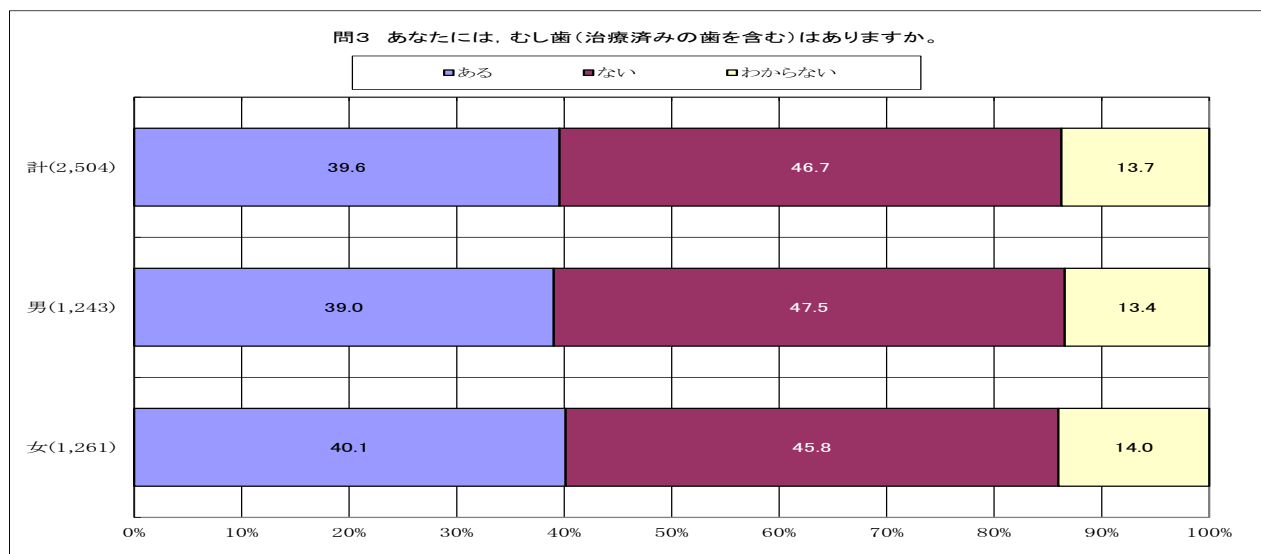
(1) 回答数等

有効回答率は76.7%であり、有効回答数の男女比は約1:1であった。
 なお、回収した調査票のうち、性別が記入されているものを有効回答とした。

	調査人数	回収数	有効回答数	有効回答率 (%)
男性	3,281	1,249	1,249	-
女性		1,266	1,266	-
性別等無記入		11	0	-
計	3,281	2,526	2,515	76.7

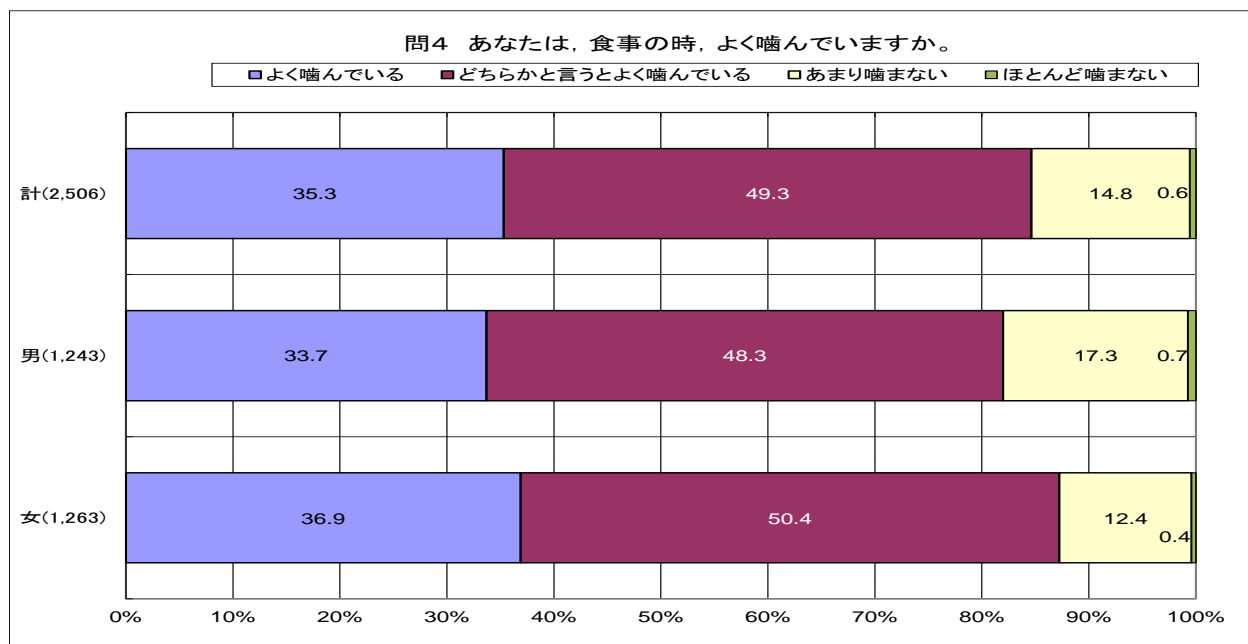
(2) むし歯の有無

むし歯があると答えた人の割合は39.6%であった。



(3) 噛んで食べる時の状態

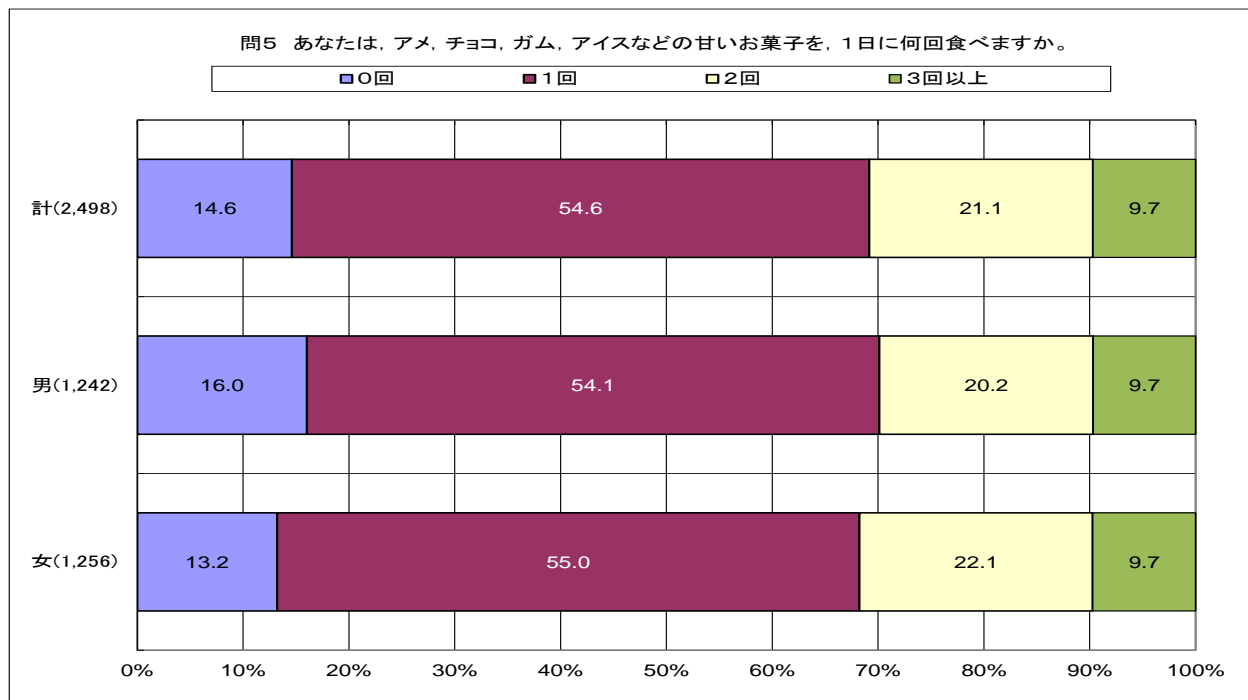
どちらかと言うとよく噛んでいると回答した者の割合が49.3%と最も高かった。



(4) 甘い食べ物の摂取頻度

1日1回食べると回答した者の割合が54.6%と最も高かった。

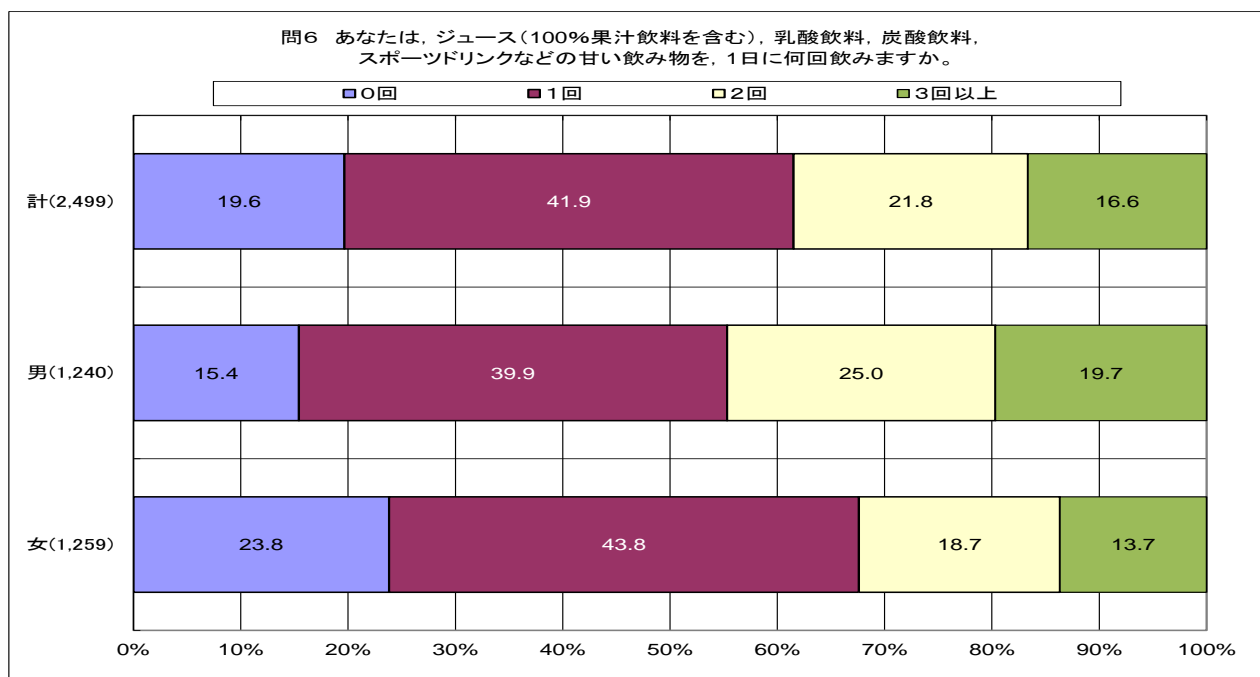
なお、甘いお菓子を全く食べない者は、1日1回以上食べる者に比べて、むし歯が少ない傾向がみられた。



(5) 甘い飲み物の摂取頻度

1日1回飲むと回答した者の割合が41.9%と最も高かった。女性の方が甘い飲み物を全く飲まない者が多かった。

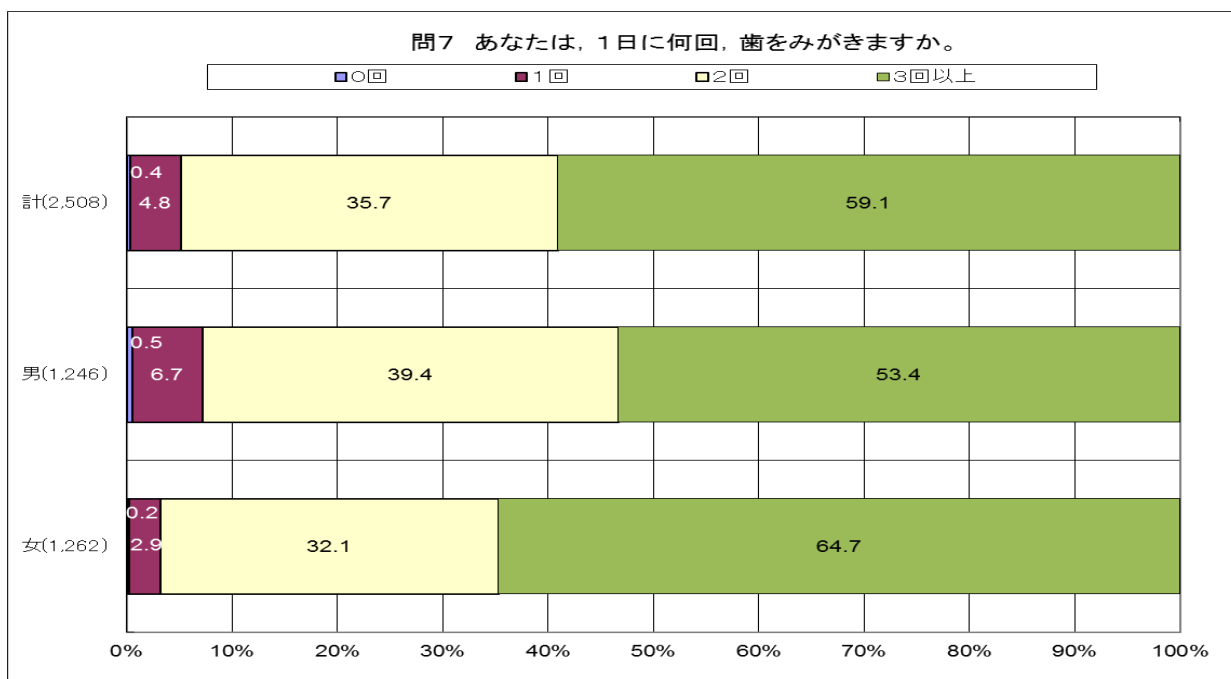
なお、甘い飲み物を全く飲まない者は、1日1回以上飲む者に比べて、むし歯が少ない傾向がみられた。



(6) 歯みがきの回数

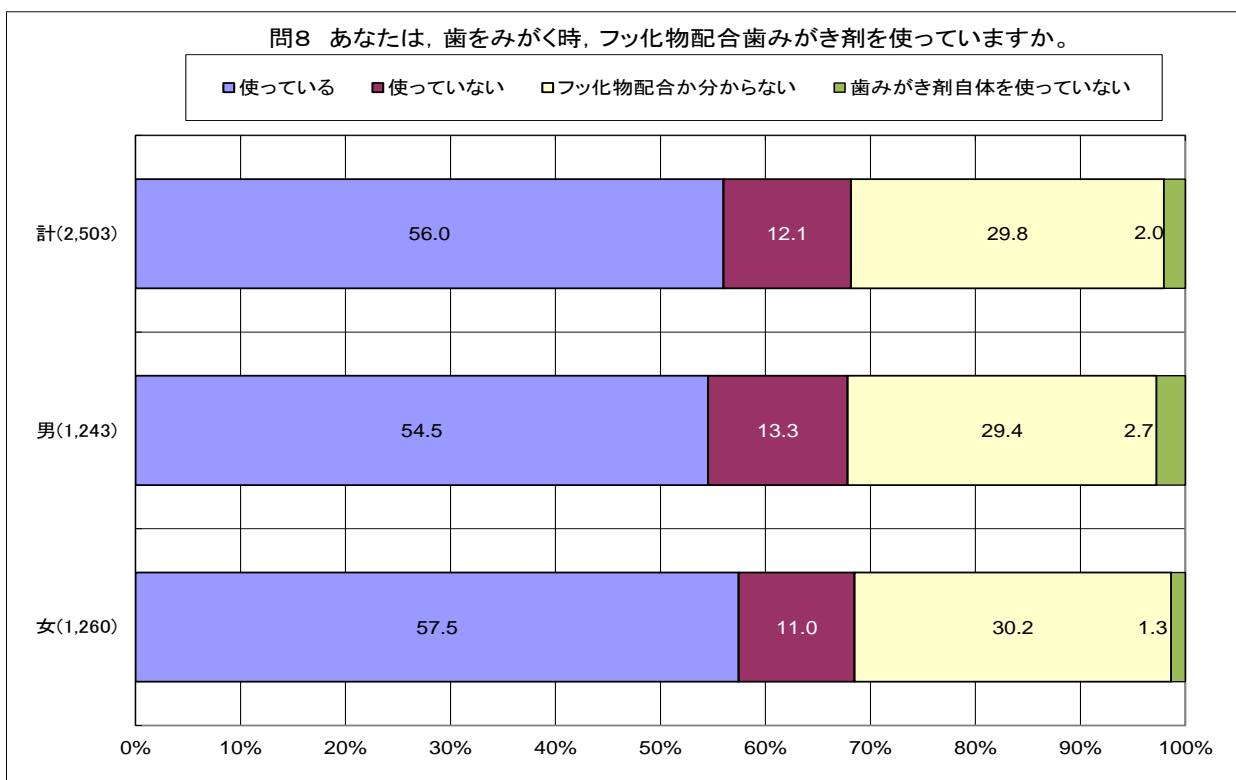
1日3回以上みがくと回答した者の割合が59.1%と最も高かった。

なお、1日3回以上みがく者は、2回以下の者に比べて、むし歯が少ない傾向がみられた。



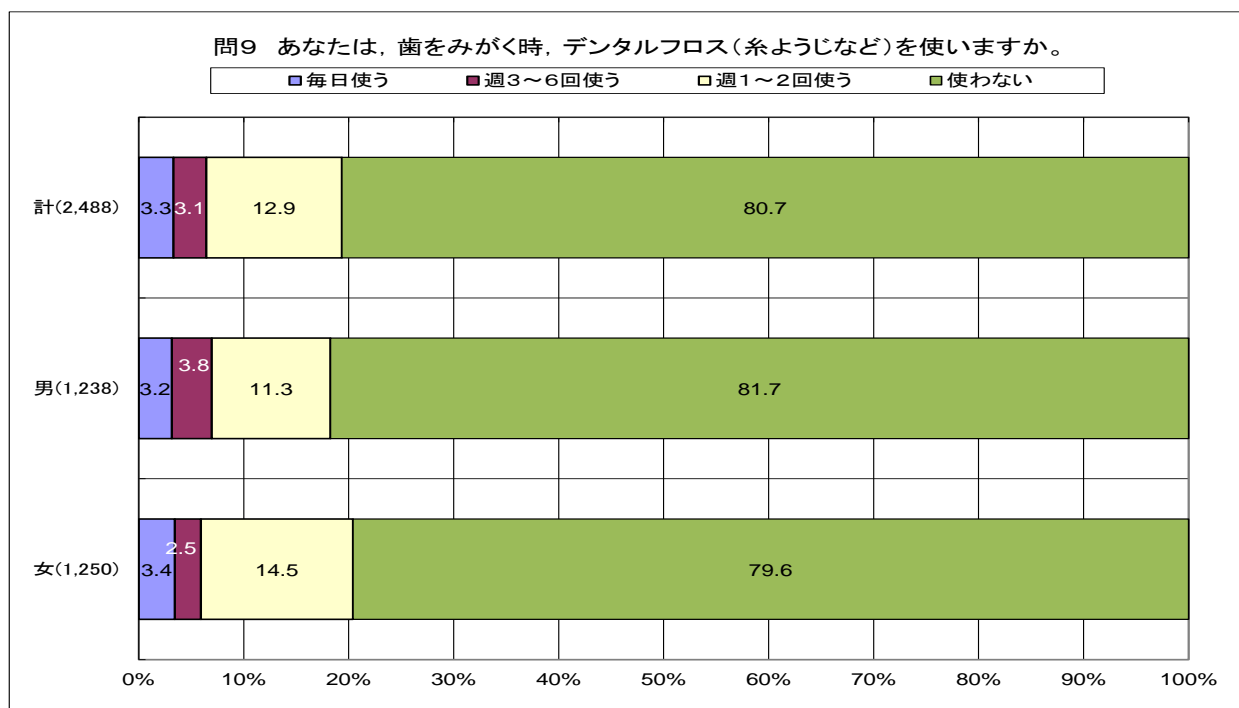
(7) フッ化物配合歯磨き剤の使用

使っていると回答した者の割合は56.0%である一方、フッ化物配合か分からないと回答した者の割合は29.8%であった。



(8) 歯間清掃用具の使用頻度

1 回以上使っていると回答した者の割合は 19.3%であった。



(9) 歯肉の炎症所見

「歯ぐきが腫れていますか」「歯をみがく時血が出ますか」の設問のいずれか、または両方で「はい」と回答した者を「歯肉に炎症所見がある者」とした。

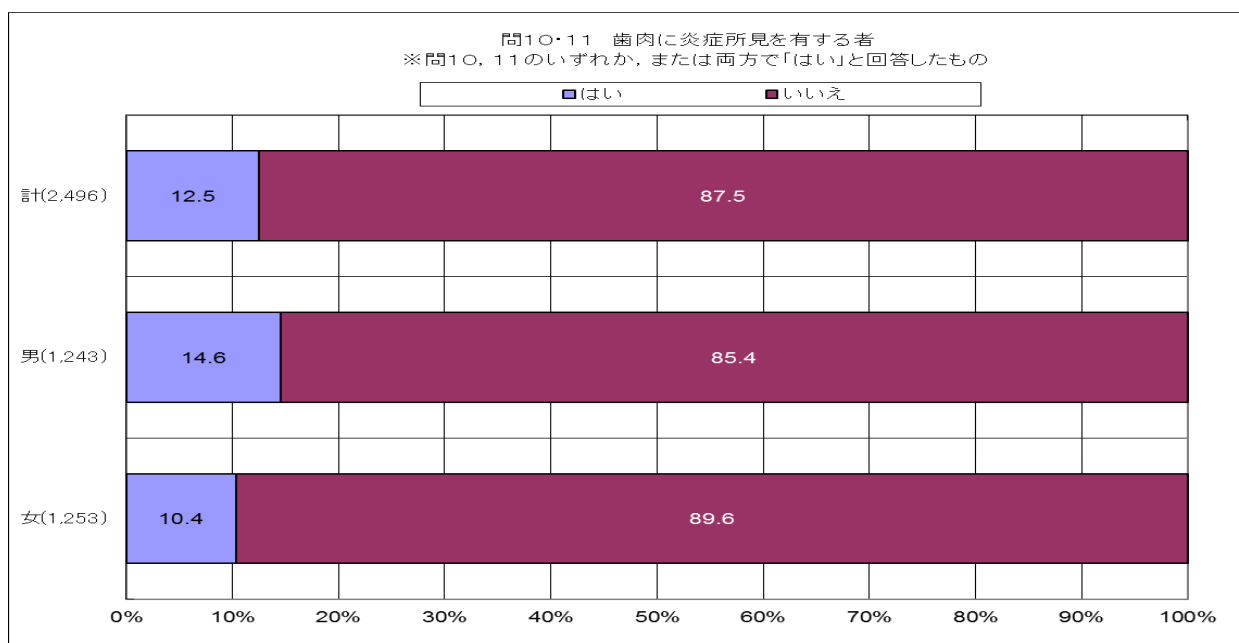
歯肉に炎症所見を有する者の割合は 12.5%であり、女性の方が少なかった。

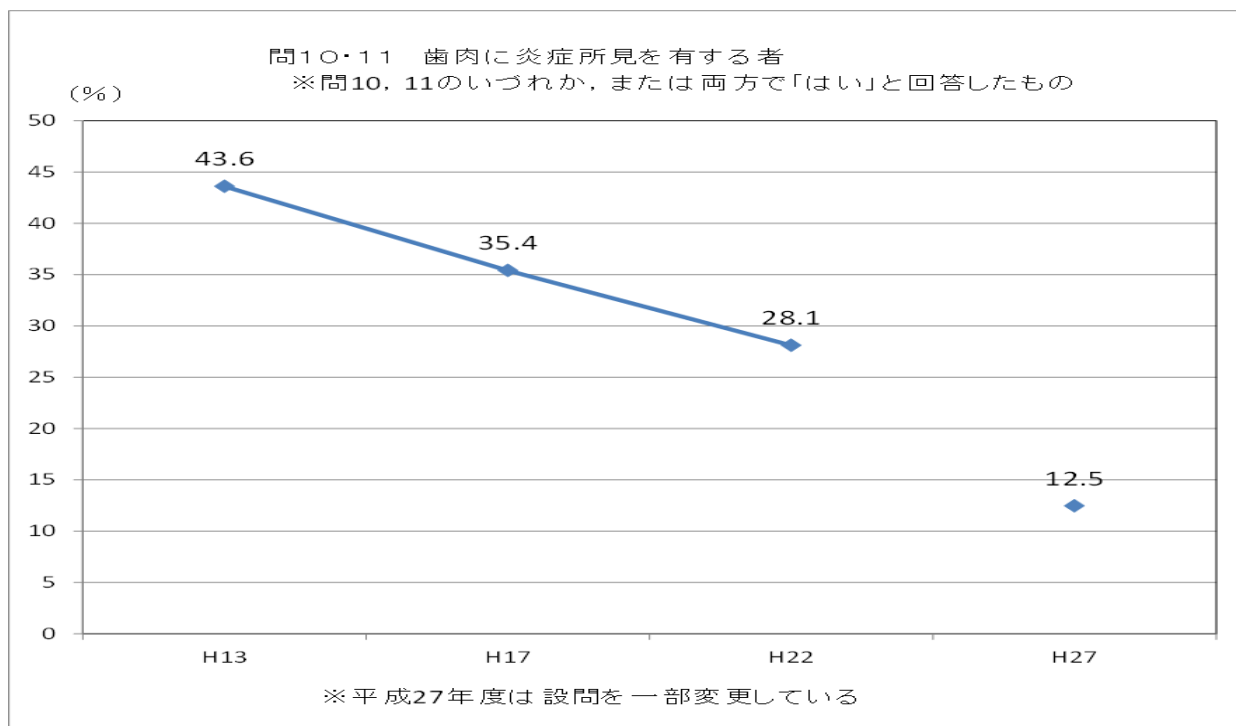
(年次推移)

平成 22 年度以前の調査では、「歯みがきのとき歯ぐきから血が出ることがありますか」の設問で「よくある」または「時々ある」と回答した者とした。

平成 27 年度の調査では (9) 「歯肉の炎症所見を有する者」とした。

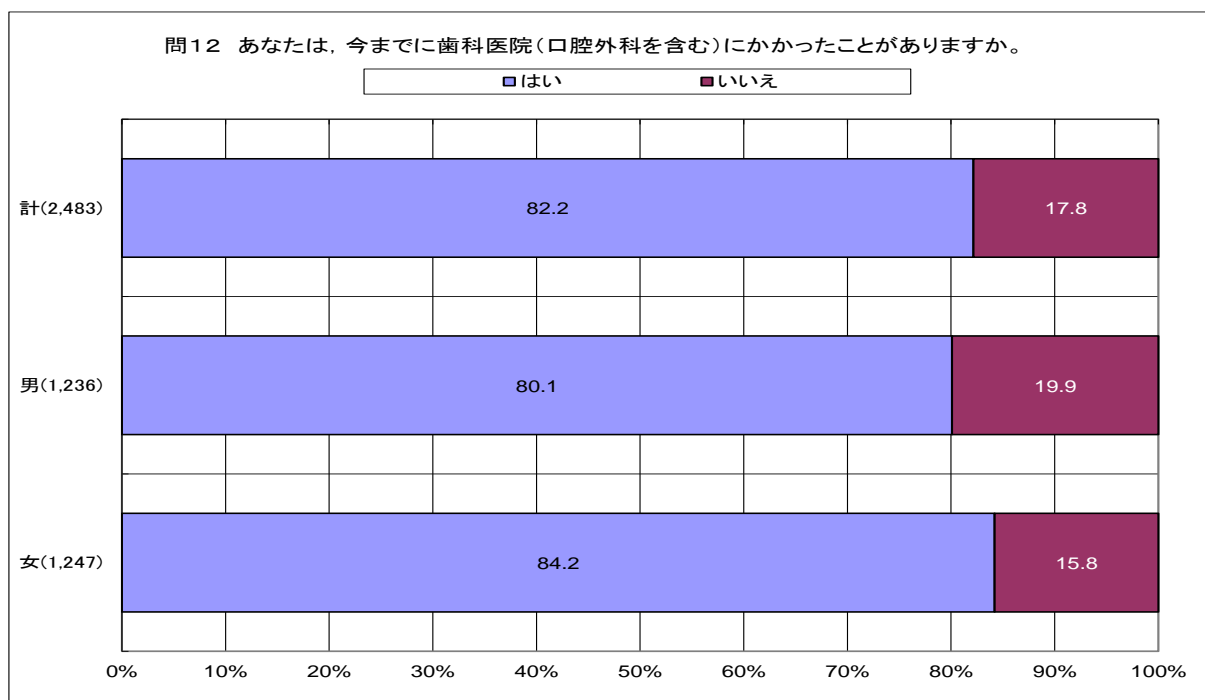
設問を変更したため単純比較はできないが、低下傾向が認められた。





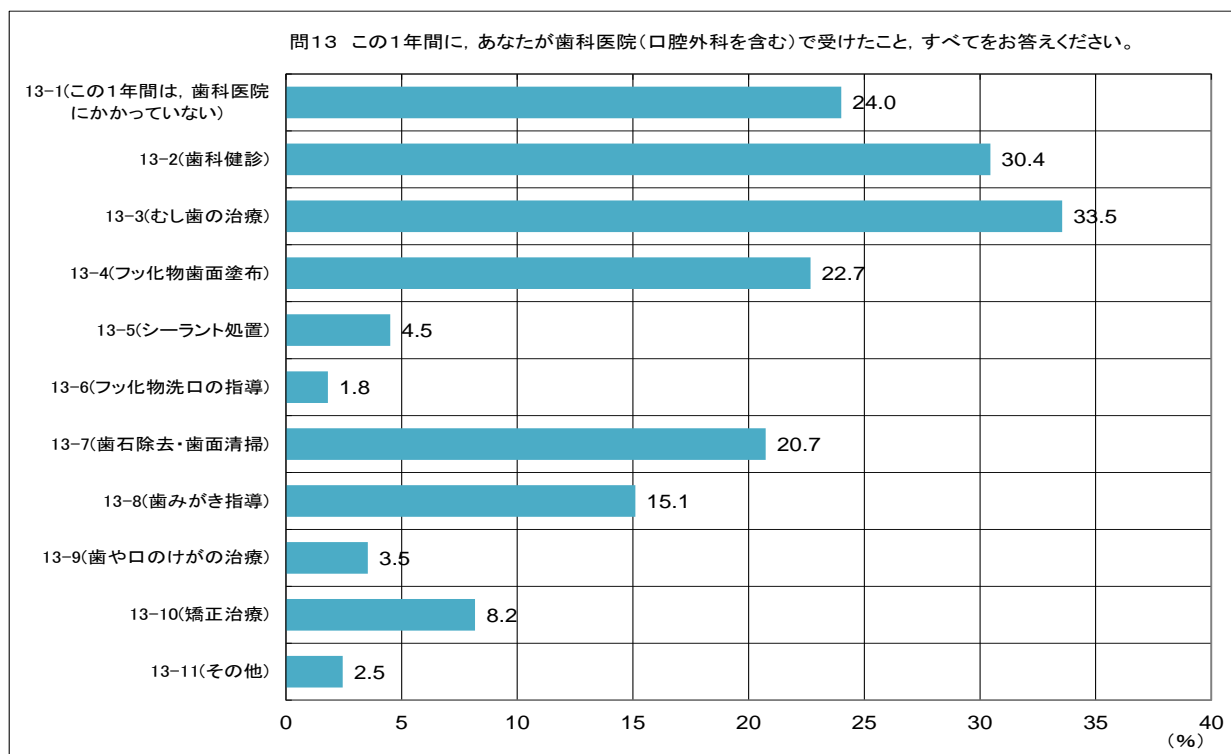
(10) 歯科医院への受診

今までに歯科医院にかかったことがあると答えた人の割合は82.2%であり、女性の方が多かった。



(11)1年間に歯科医院（口腔外科を含む）で受けたこと（複数回答）

各選択肢のうち、最も回答率が高いのは「むし歯の治療」であり、次いで「歯科健診」であった。「その他」の内容としては「乳歯の抜歯」が最も多かった。



3 3歳児を対象とした調査

(1) 回答数等

有効回答率は73.1%であり、有効回答数の男女比は約1:1であった。
 なお、回収した調査票のうち、性別が記入されているものを有効回答とした。

	調査人数	回収数	有効回答数	有効回答率 (%)
男性	3,447	1,278	1,278	-
女性		1,242	1,242	-
性別等無記入		11	0	-
計	3,447	2,531	2,520	73.1

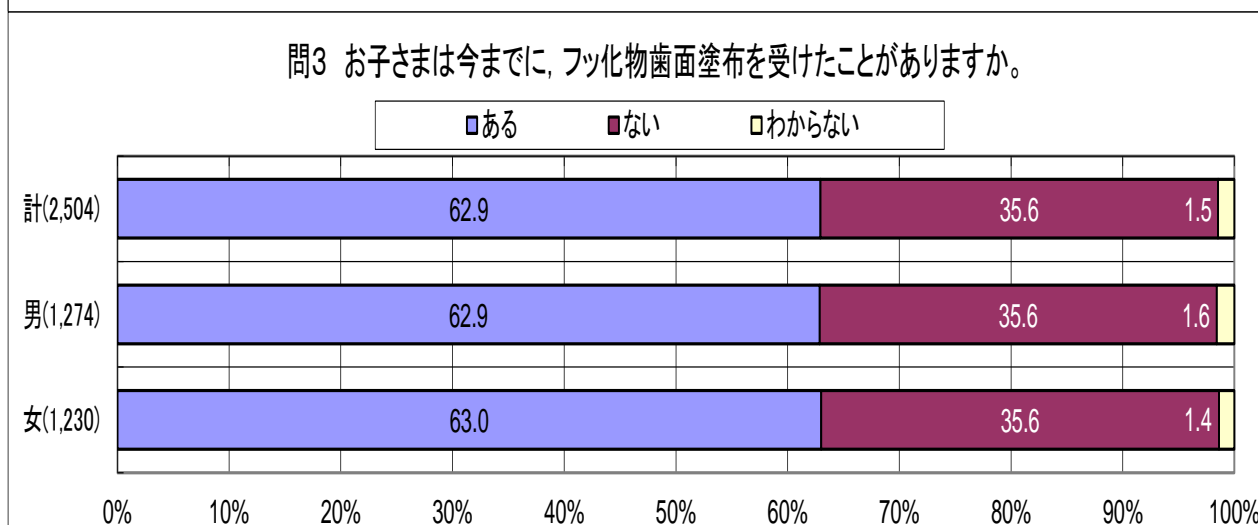
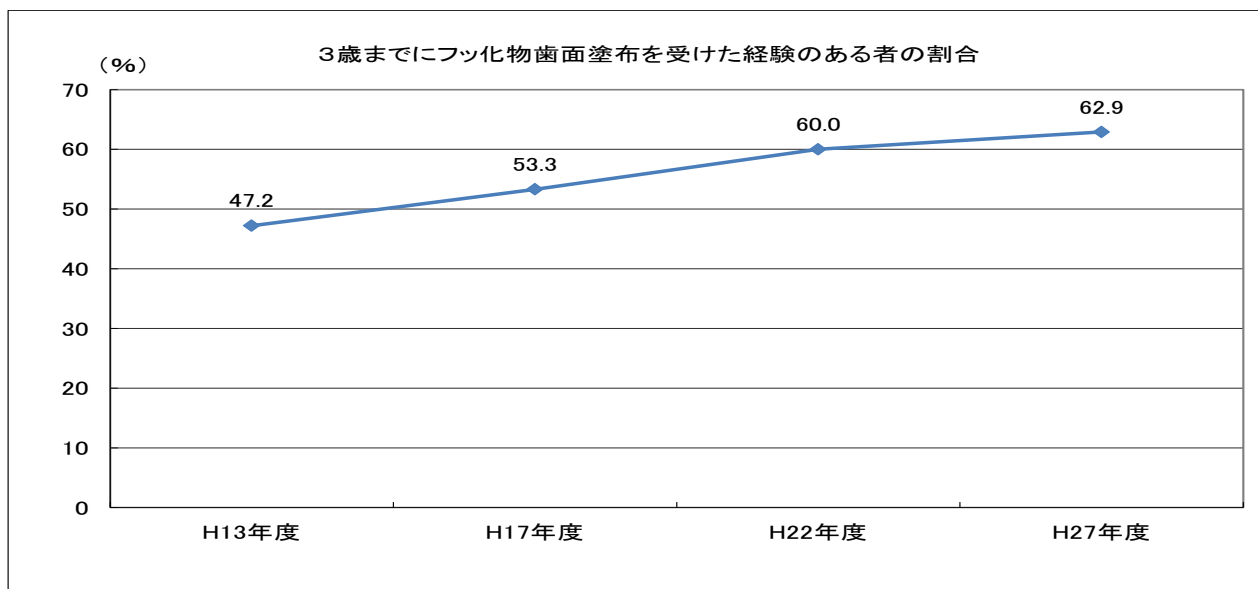
(2) フッ化物歯面塗布

県の目標では平成29年度までに、3歳までにフッ化物歯面塗布を受けたことがある者の割合を80%と設定しているものの、本調査では62.9%であった。

保健所別では、全市町でフッ化物塗布事業を行っている水戸保健所管内が86.4%と最も高く、全市でフッ化物塗布事業を行っていない潮来保健所管内が25.7%と最も低く、保健所間の格差がみられた。

(年次推移)

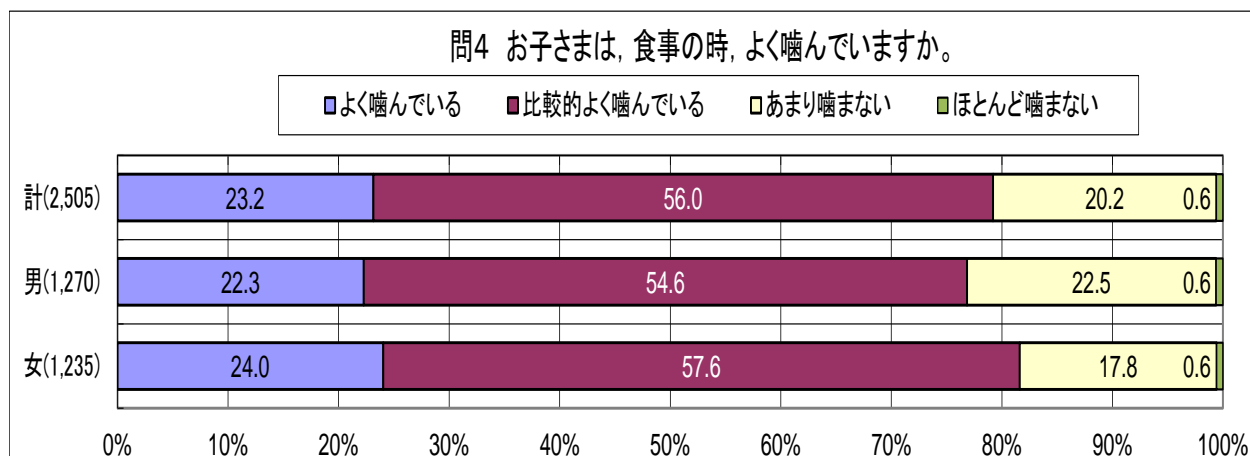
3歳までにフッ化物歯面塗布を受けた者は年々増加傾向にあった。



(3) 噛んで食べる時の状態

比較的よく噛んでいると回答した者の割合が 56.0%と最も高かった。

保健所別では、よく噛んでいる者の割合が最も高いのは竜ヶ崎保健所管内で、最も低いのは潮来保健所管内であった。

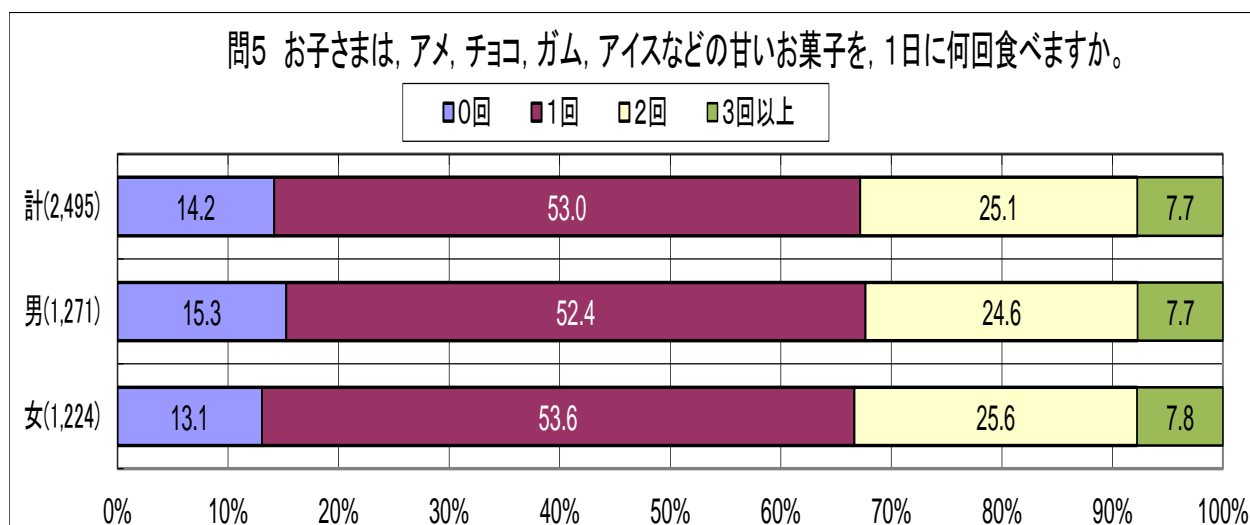


(4) 甘い食べ物の摂取頻度

1日1回食べると回答した者の割合が 53.0%と最も高かった。

保健所別では、1日3回以上食べると回答した者の割合が最も低いのは常陸大宮保健所管内で、最も高いのは古河保健所管内であった。

なお、甘いお菓子を1日1回以下食べる者は、1日2回以上食べる者に比べて、むし歯が少ない傾向がみられた。

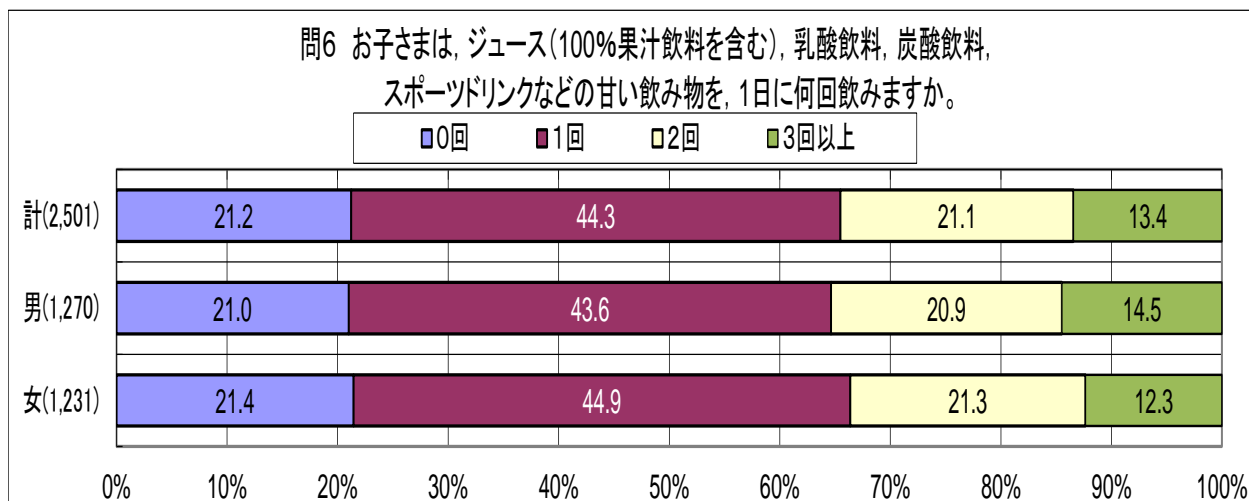


(5) 甘い飲み物の摂取頻度

1日1回飲むと回答した者の割合が 44.3%と最も高かった。

保健所別では、1日3回以上飲むと回答した者の割合が最も低いのは常陸大宮保健所管内とつくば保健所管内で、最も高いのは古河保健所管内であった。

なお、甘い飲み物を全く飲まない者は、1日1回以上飲む者に比べて、むし歯が少ない傾向がみられた。



(6) 就寝前の甘いものの摂取

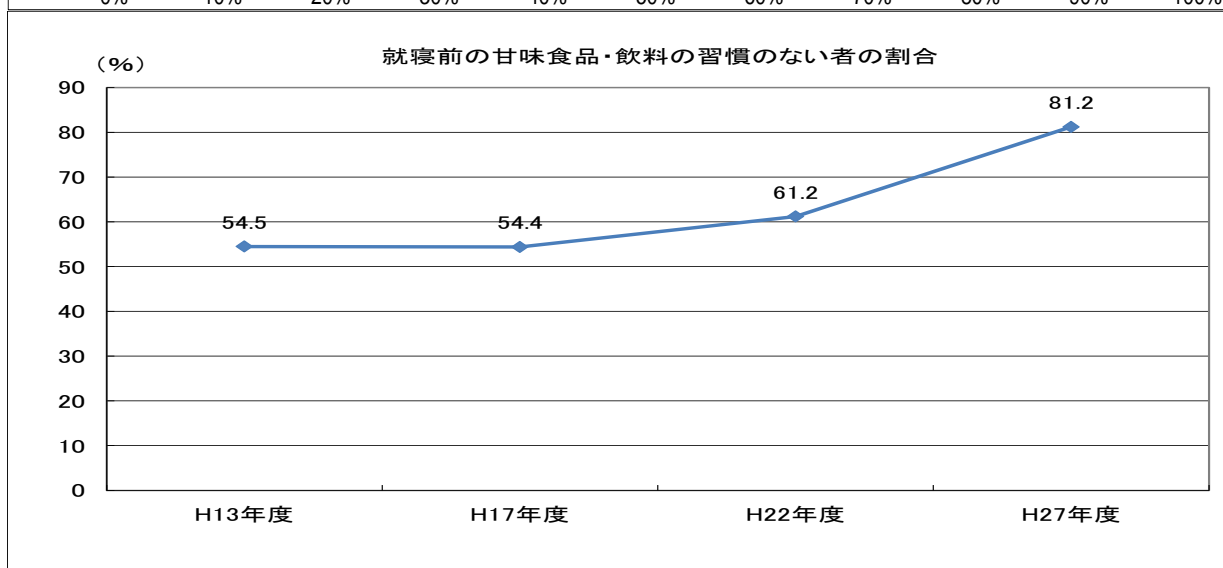
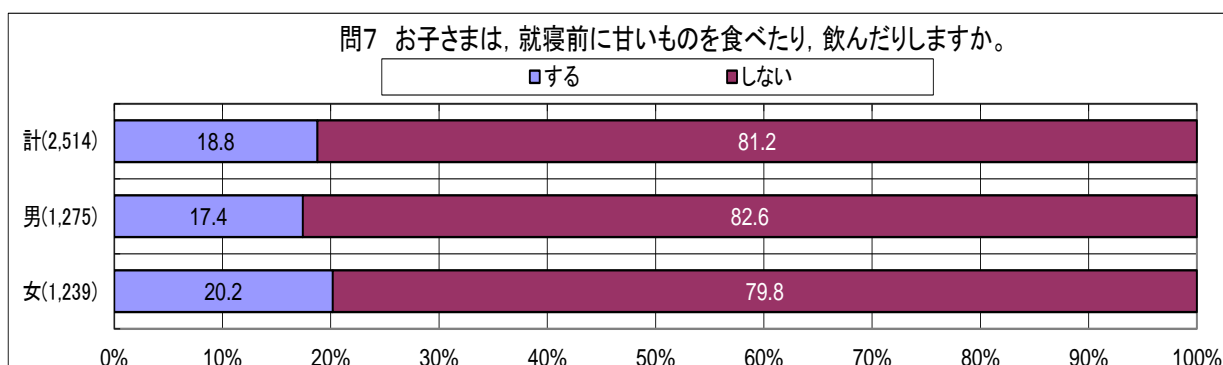
就寝前に甘いものを摂取しないと回答した者の割合は81.2%であった。

保健所別では、就寝前に摂取しないと回答した者の割合が最も高いのはひたちなか保健所管内で、最も低いのは古河保健所管内であった。

なお、就寝前に甘い飲み物をとらない者は、とる者に比べて、むし歯が少ない傾向がみられた。

(年次推移)

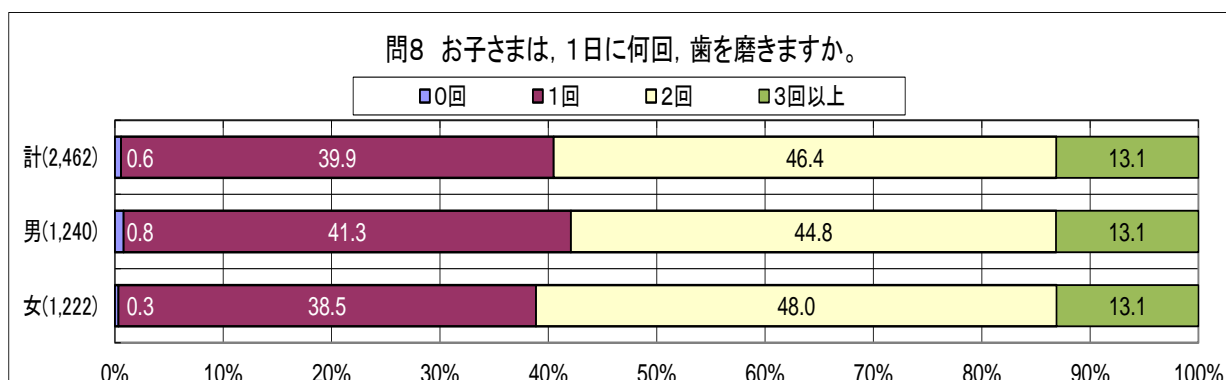
就寝前の甘いものを摂取しない者が年々増加し、今回は初めて8割を超えた。



(7) 歯磨き回数

1日2回歯を磨くと回答した者の割合が46.4%と最も高かった。

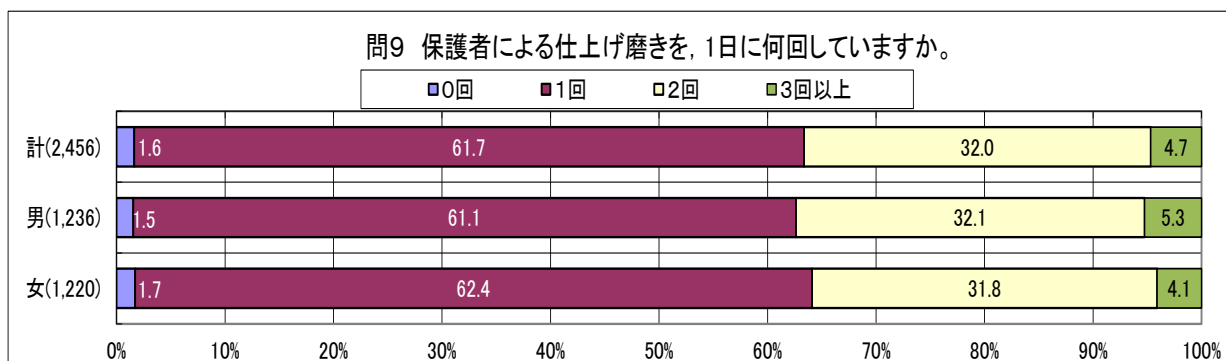
保健所別では、1日3回以上磨くと回答した者の割合が最も高いのは土浦保健所管内で、最も低いのは古河保健所管内であった。



(8) 仕上げ磨き

保護者による仕上げ磨きを1日に1回していると回答した者の割合が61.7%と最も高かった。

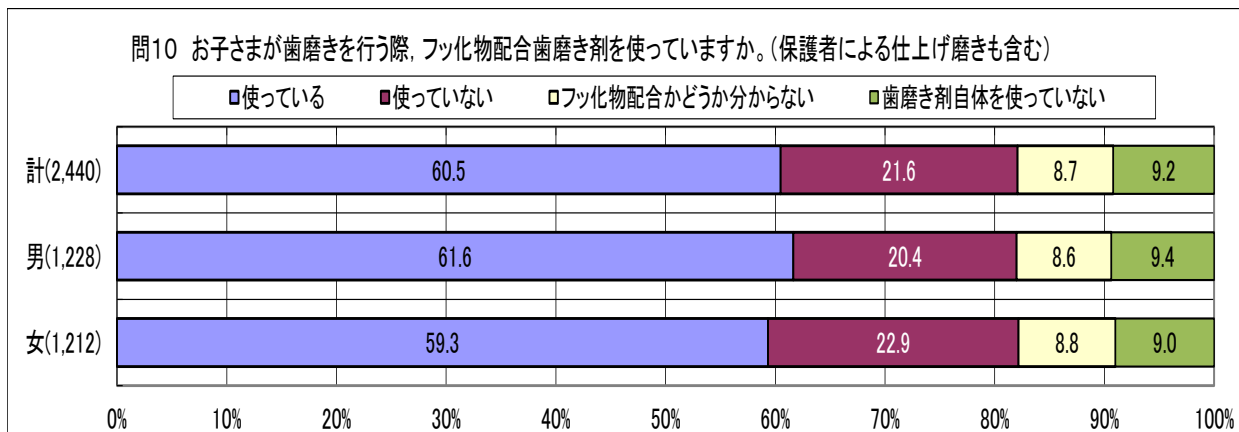
保健所別では、仕上げ磨きを1回も行っていないと回答した者の割合が最も少ないのは筑西保健所管内で、最も多いのは常総保健所管内であった。



(9) フッ化物配合歯磨き剤の使用

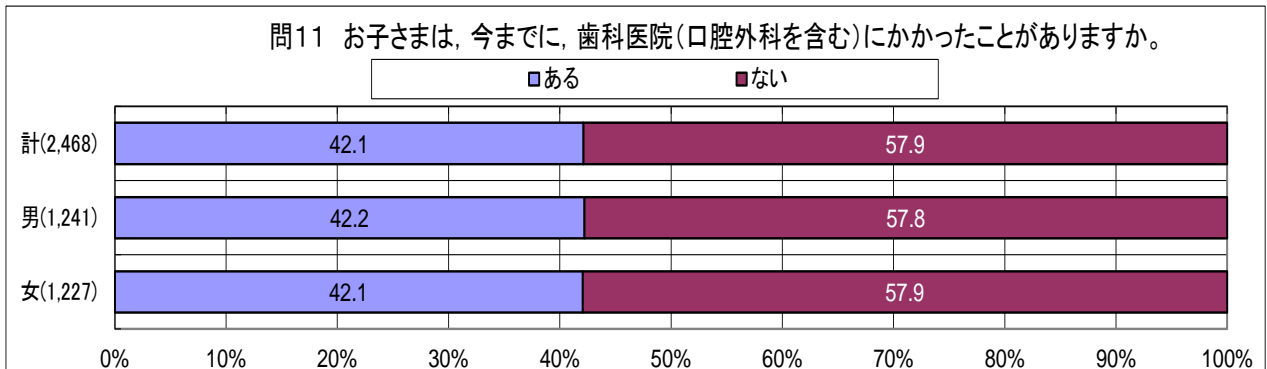
使っていると回答した者の割合は60.5%であった。

保健所別では、使っていると回答した者の割合が最も高いのは銚田保健所管内で、最も低いのは竜ヶ崎保健所管内であった。



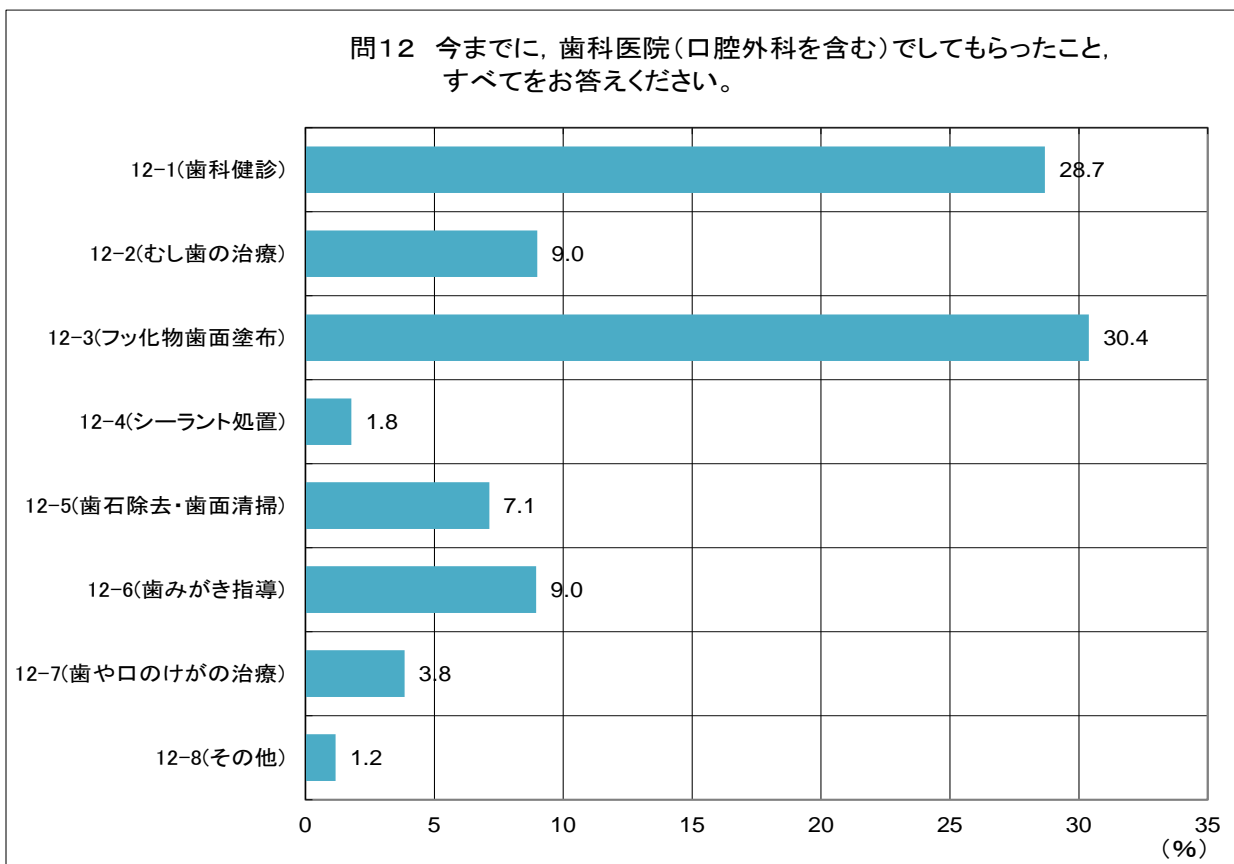
(10) 歯科医院への受診

今までに歯科医院にかかったことがあると答えた人の割合は 42.1%であった
 保健所別では、かかったことがあると回答した者の割合が最も高いのは古河保健所
 管内で、最も低いのは潮来保健所管内であった。



(11) 1年間に歯科医院(口腔外科を含む)で受けたこと(複数回答)

各選択肢のうち、最も回答率が高いのは「フッ化物歯面塗布」であり、次いで「歯科健診」であった。「その他」の内容としては「歯並びの相談」が最も多かった。



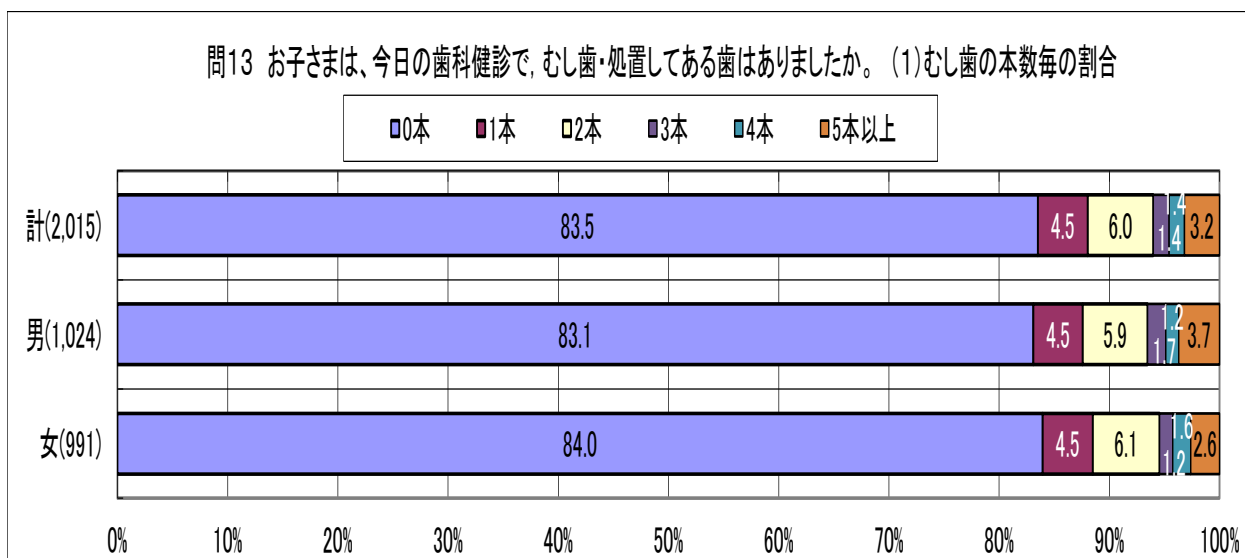
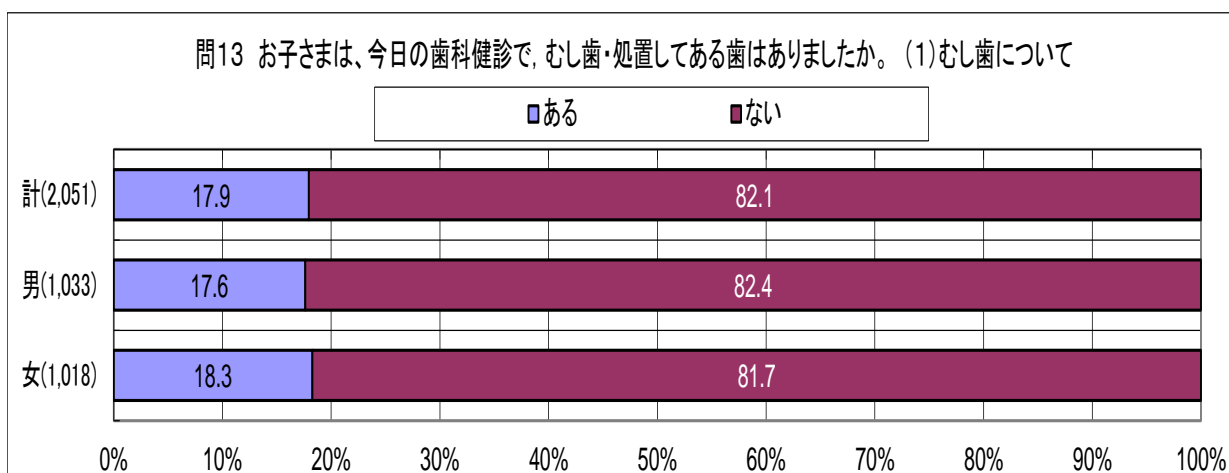
(12)むし歯・処置歯

むし歯があると回答した者の割合は17.9%であった。保健所別では、むし歯があると回答した者の割合が最も高いのは常総保健所管内で、最も低いのはつくば保健所管内であった。

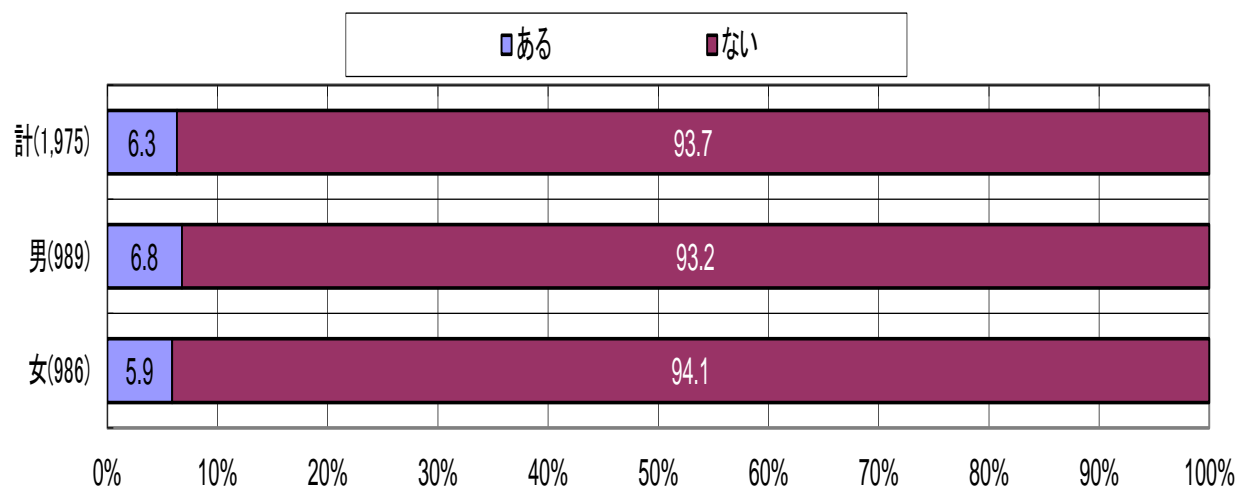
むし歯の本数毎の割合では、0本を除くと、2本と回答した者の割合が最も高かった。保健所別では、5本以上と回答した者の割合が最も高いのは常総保健所管内で、最も低いのはひたちなか保健所管内であった。

処置歯があると回答した者の割合は6.3%であり、男児の方が多かった。保健所別では、処置歯があると回答した者の割合が最も高いのは常総保健所管内で、最も低いのはつくば保健所管内であった。

処置歯の本数毎の割合では、0本を除くと、1本と回答した者の割合が最も高かった。保健所別では、3本以上と回答した者の割合が最も高いのは常総保健所管内で、最も低いのは竜ヶ崎保健所管内であった。



問13 お子さまは、今日の歯科健診で、むし歯・処置してある歯はありましたか。(2)処置してある歯について



問13 お子さまは、今日の歯科健診で、むし歯・処置してある歯はありましたか。(2)処置してある歯の本数毎の割合

